

H24-D1-1

孔 口 標 高	T. P.	20. 25m	掘 削 長	100. 00m
---------	-------	---------	-------	----------

標 尺 m	標 高 m	深 度 m	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R Q D (%)	コ ア 採 取 率 (%) 最大 コ ア 長 (cm) R Q D [%]	記 事
				埋土	にぶい黄橙		100				0.00~4.33m ・埋土である。
				砂礫	にぶい黄橙		100				4.33~5.05m ・砂礫である。 ・径5~30mmの花崗斑岩の硬質礫を含む。
	17.19	4.33		砂	にぶい黄橙		100				5.05~5.45m ・砂である。
	16.68	5.05		砂礫	にぶい黄橙		100				5.45~6.33m ・径1~3mmの石英を多く含む。
	16.40	5.45		砂	にぶい黄橙		100				6.33~6.59m ・砂礫である。
	15.77	6.33		砂礫	にぶい黄橙		100				6.59~6.72m ・礫は径2~80mmの垂円~垂角礫を含み基質は中粒~粗粒砂からなる。
	15.59	6.72		シルト混り砂	にぶい黄橙		100				6.72~9.48m ・シルト混り砂である。
	13.55	9.48		砂	にぶい黄橙		100				9.48~10.25m ・砂礫である。 ・礫は径2~70mmの石英、垂円~垂角礫からなる。
10	13.00	10.25		砂礫	にぶい黄橙		100				10.25~11.00m ・砂である。 ・不均質に粘土分や有機物を含む。
	12.47	11.00		砂	にぶい黄橙		100				11.00~12.20m ・砂礫である。
	11.62	12.20		砂礫	にぶい黄橙		100				12.20~100.00m ・花崗斑岩である。 ・風化部である。
20						D'	100	7	0		21.04~30.53m ・割れ目が多く、短柱状を呈する。
						D'	100	4	0		
						D'	100	8	0		
						CL'	100	6	0		
						CL'	100	9	0		
						D'	100	5	0		
						D'	100	4	0		
						D'	100	3	0		
						D'	100	6	0		
						CL'	100	7	0		
						CL'	100	12	12		
						CL'	100	11	11		
						CL'	100	6	0		
						D'	100	5	0		
						CL'	100	2	0		
						CL'	100	16	16		
						D'	100	4	0		
30						CL'	100	17	17		32.38~42.23m ・割れ目が多く、砂~短柱状を呈する。
						CL'	100	6	0		
						CL'	100	22	22		
						CL'	100	9	0		
						CL'	100	9	0		
						CL'	100	5	0		
						CL'	100	4	0		
						CL'	100	10	10		
						D'	100	4	0		
						CL'	100	5	0		

第7.4.4.26図(1)_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間) コア柱状図 (H24-D1-1)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D [%]	記 事
50				花崗斑岩	明褐色	CL'	100	15	27	●	<ul style="list-style-type: none"> ●45.91~48.28m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・明褐色～明黄褐色の礫混じり粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・明褐色～明黄褐色の礫混じり粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・にぶい赤橙～明黄褐～にぶい黄褐色粘土：累計厚34mm ・走向・傾斜はN1° E58° Wである。 ●49.20~49.91m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・明褐色～明黄褐色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・明褐色～明黄褐色粘土：累計厚10mm。 ・走向・傾斜はN9° W74° Eである。 ●53.77~54.54m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・にぶい橙～にぶい黄橙～灰黄色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・にぶい黄褐～淡黄橙～黄褐～浅黄橙色粘土：累計厚52mm ・走向・傾斜はN20° E77° Eである。 ●58.96~59.30m ・破砕部である。 ・明褐色～淡黄～浅黄褐色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・明赤灰～褐灰～にぶい橙色粘土：累計厚30mm ・走向・傾斜はN8° E78° Wである。 ●60.12~60.15m (D-1破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・浅黄橙～にぶい黄褐色の礫混じり粘土状を呈する。 ・浅黄橙～にぶい黄褐色粘土：累計厚23mm ・走向・傾斜はN9° E88° Wである。 ●68.84~69.00m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・浅黄橙～灰白色の粘土状～礫質粘土状を呈する。 ・にぶい黄橙～暗褐色粘土：累計厚16mm ・走向・傾斜はN31° W72° NEである。 ●78.77~79.19m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・明オリーブ灰～赤灰色の礫混じり粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・灰赤色粘土：累計厚3mm ・走向・傾斜はN4° E78° Eである。 	
							100	8	0	●		
						100	8	0	●			
						にぶい橙	D'	100	3	0		●
								100	2	0		●
						明黄褐	D'	100	1	0		●
								100	1	0		●
						明褐色	D'	100	2	0		●
								100	5	0		●
						にぶい橙	CL'	100	4	0		●
								100	2	0		●
						灰褐	D'	100	2	0		●
								100	4	0		●
						にぶい黄橙	CL'	100	4	0		●
								100	4	0		●
						明褐色	D'	100	2	0		●
								100	1	0		●
						橙	D'	100	4	0		●
								100	1	0		●
						明褐色	D'	100	2	0		●
100	5	0	●									
灰褐	CL'	100	6	0	●							
		100	10	10	●							
にぶい黄橙	CL'	100	10	10	●							
		100	11	21	●							
灰褐	D'	100	6	0	●							
		100	4	0	●							
灰褐	D'	100	3	0	●							
		100	3	0	●							
にぶい黄橙	CL'	100	3	0	●							
		100	2	0	●							
灰褐	D'	100	3	0	●							
		100	4	0	●							
灰褐	CL'	100	4	0	●							
		100	4	0	●							
灰褐	D'	100	1	0	●							
		100	3	0	●							
灰褐	CL'	100	4	0	●							
		100	3	0	●							

第7.4.4.26図(2)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間) コア柱状図 (H24-D1-1)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記事
90	-50.46	100.00		花崗斑岩	灰褐	CL'	100	3	0		80.08~81.00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ●81.20~81.42m ・破碎部である。 ・左ずれセンスである。 ・にぶい黄橙~浅黄橙色の粘土状~礫質粘土状を呈する。 ・灰赤~淡赤橙色粘土：累計厚4mm ・走向・傾斜はN29° W79° Wである。
					にぶい黄橙		100	5	0		
					灰褐		100	5	0		
					灰褐		100	6	0		
					灰褐		100	6	0		
					灰褐		100	8	0		
					灰褐		100	9	0		
					にぶい黄橙	D'	100	11	11		87.14~88.35m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
					灰褐	CL'	100	4	0		●89.91~89.95m ・破碎部である。 ・正断層センスである。 ・明赤灰色の礫混じり粘土状を呈する。 ・明赤灰色粘土：累計厚35mm ・走向・傾斜はN22° W80° Eである。
					灰褐	D'	100	4	0		●90.26~90.84m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる。
					灰褐	CL'	100	3	0		・にぶい黄橙~灰白色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・赤灰色粘土：累計厚2mm ・走向・傾斜はN53° W80° NEである。
					褐灰	D'	100	1	0		●91.26~91.52m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる。
					灰褐	CL'	100	4	0		・にぶい黄橙~浅黄橙色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・赤灰色粘土：累計厚15mm ・走向・傾斜はN31° E83° SEである。
					灰褐	CL'	100	5	0		●93.12~93.24m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる。
					灰褐	CL'	100	5	0		・灰黄~灰白~にぶい黄橙色の粘土状~礫質粘土状を呈する。 ・灰赤~明赤灰色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN11° E83° Eである。

第7.4.4.26図(3)_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間) コア柱状図 (H24-D1-1)

H27-B-1

孔 口 標 高	T.P. 20.22m	掘 削 長	140.00m
---------	-------------	-------	---------

標 尺 m	標 高 m	深 度 m	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R Q D (%)	コ ア 採 取 率 (%)			記 事
										最 大 コ ア 長 (cm)	R (%)	Q (%)	
					にぶい黄褐		100						0.00~4.10m ・盛土である。
					明褐灰		100						
					砂礫		100						4.10~4.30m ・砂礫である。
					にぶい黄褐		100						4.30~4.65m ・礫混じり砂である。
					灰褐		100						4.65~6.80m ・砂礫である。
					明褐灰		100						6.80~7.15m ・最大径200mmの礫を含む。
					有機質土		100						7.15~7.30m ・有機質土である。
					にぶい黄褐		100						7.30~8.60m ・分解途中の有機物を多く含む。
					灰黄褐		100						8.60~12.10m ・礫混じり砂である。
					明黄褐		100						12.10~12.49m ・砂礫である。
					黄褐		100						12.49~94.07m ・一部有機質土の薄層を挟む。
					にぶい黄橙	D'	100	11	11				12.49~94.07m ・少量のくさり礫を含む。
					にぶい黄橙		100	2	0				12.49~14.84m ・花崗斑岩である。
					にぶい黄橙		100	8	0				12.49~14.84m ・強化部である。
					にぶい黄橙		100	10	10				17.44m ・土砂状を呈するが、岩組織は残っている。
					にぶい黄橙	GL'	100	4	0				17.44m ・灰白色の粘土脈を挟み、脆弱である。
					にぶい黄橙		100	14	14				21.16~22.01m ・割れ目沿いに、幅10~40mm砂状化している。
					にぶい黄橙		100	7	0				21.16~22.01m ・割れ目沿いに、一部幅10~30mm砂状化している。
					にぶい黄橙		100	14	14				23.05~23.80m ・割れ目の交差部で、一部細片状を呈する。
					にぶい黄橙		100	3	0				24.44~24.71m ・土砂状を呈する。
					花崗斑岩	CL'	100	9	0				
					にぶい黄橙	D'	100	6	0				
					にぶい黄橙		100	9	0				27.10~27.60m ・砂礫状を呈する。
					にぶい黄橙		100	5	0				
					明褐灰	D'	100	3	0				28.84~30.74m ・締まった砂礫状を呈する。
					明褐灰		100	4	0				
					真褐	CL'	100	3	0				31.05~31.23m ・変質し、白色粘土化している。
					にぶい黄橙		100	6	0				31.70~32.20m ・割れ目沿いに砂状化し、砂混じり岩片状を呈する。
					明褐灰	CL'	100	14	14				
					にぶい黄橙		100	4	0				33.40m ・割れ目沿いに幅20mm砂状化している。
					にぶい黄橙	CL'	100	4	0				●34.54~34.59m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる。
					明褐灰	D'	100	9	0				にぶい黄橙色の粘土混り角礫状を呈する。
					明褐灰		100	7	0				灰黄褐色砂混じり粘土：累計厚4mm
					明褐灰	CL'	100	5	0				走向・傾斜はN25° E46° Wである。
					明褐灰		100	4	0				傾斜は11°である。
					明褐灰		100	7	0				土盤境界の傾斜は10°~40°、下盤境界の傾斜は11°である。
					明褐灰		100	4	0				35.37~37.15m ・著しく軟質化している。
					明褐灰		100	7	0				37.80m ・割れ目沿いに、幅10~20mm砂状化している。
					明褐灰		100	32	0				40.32~40.77m ・砂礫状を呈する。

第7.4.4.27図(1)_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間) コア柱状図 (H27-B-1)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記事
		50		花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	8	0	●	<p>40.32~40.77m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂礫状を呈する。 42.24~42.28m ・変質し、淡黄色粘土化している。 ●42.41~42.49m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・にぶい黄褐色の礫混り粘土状~灰白色の礫質粘土状~にぶい黄褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・にぶい黄褐色礫混り粘土：累計厚15mm ・走向・傾斜はN65° W36° Nである。 ・傾斜は54°である。 ・上盤境界の傾斜は63°、下盤境界の傾斜は18°である。 ●44.24~44.53m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・灰黄褐色の粘土状~灰黄~灰褐~淡黄色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰黄褐色粘土：累計厚2mm ・走向・傾斜はN1° E89° Wである。 ・傾斜は35°である。 ・上盤境界の傾斜は5°~13°、下盤境界の傾斜は70°である。 ●44.53~44.83m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・灰黄褐色の粘土状~明赤灰~灰白色の礫質粘土状~にぶい橙~灰白~淡黄色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰黄褐色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はNS66° Eである。 ・傾斜は65°である。 ・上盤境界の傾斜は70°、下盤境界の傾斜は75°~85°である。 ●45.36~45.39m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・灰褐色の砂質粘土状~にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰褐色砂質粘土：2mm ・走向・傾斜はN43° E70° Eである。 ・傾斜は65°である。 ・上盤境界の傾斜は62°、下盤境界の傾斜は65°である。 ●46.12~46.17m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・黒褐色の礫混り粘土状~淡黄色の粘土混じり礫状を呈する。 ・黒褐色礫混り粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN14° E79° Wである。 ・傾斜は35°~70°である。 ・上盤境界の傾斜は31°、下盤境界の傾斜は35°~70°である。 ●47.40~47.51m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・灰褐色の粘土状~黄褐色の礫質粘土状を呈する。 ・灰褐色粘土：2mm ・走向・傾斜はN21° E84° Eである。 ・傾斜は58°である。 ・上盤境界の傾斜は58°、下盤境界の傾斜は55°である。 ●49.17~49.20m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・明黄褐色の砂混じり粘土状~灰白~明黄褐色の礫質粘土~粘土混じり礫状を呈する。 ・明黄褐色砂混じり粘土：累計厚15mm ・走向・傾斜はN47° E45° Wである。 ・傾斜は30°~36°である。 ・上盤境界の傾斜は25°、下盤境界の傾斜は23°である。
		60			にぶい橙	CL'	100	4	0	●	
		70			にぶい黄橙	CL'	100	2	0	●	
					にぶい橙	CL'	100	2	0	●	
					灰褐	D'	100	1	0	●	
					灰褐	D'	100	1	0	●	
					淡黄	D'	100	1	0	●	
					にぶい橙	CL'	100	2	0	●	
					黄橙	CL'	100	1	0	●	
					にぶい黄橙	D'	100	4	0	●	
					CL'	CL'	100	6	0	●	
					にぶい橙	D'	100	5	0	●	
					D'	D'	100	2	0	●	
					灰褐	D'	100	4	0	●	
					CL'	CL'	100	3	0	●	
					にぶい橙	D'	100	7	0	●	
					D'	D'	100	5	0	●	
					CL'	CL'	100	6	0	●	
					にぶい橙	D'	100	5	0	●	
					CL'	CL'	100	8	0	●	
			CH'	CH'	100	13	13	●			
			にぶい橙	CM'	100	10	10	●			
			D'	D'	100	10	10	●			
			CL'	CL'	100	16	16	●			
			にぶい橙	CM'	100	10	10	●			
			CL'	CL'	100	9	0	●			
			D'	D'	100	9	0	●			
			CM'	CM'	100	9	0	●			
			D'	D'	100	12	12	●			
			CL'	CL'	100	3	0	●			
			D'	D'	100	10	10	●			
			灰褐	CL'	100	9	0	●			
			にぶい橙	CL'	100	6	0	●			
			灰褐	CL'	100	8	0	●			
			CM'	CM'	100	6	0	●			
			にぶい黄橙	D'	100	3	0	●			
			灰褐	D'	100	4	0	●			
			CL'	CL'	100	5	0	●			
			D'	D'	100	5	0	●			
			にぶい黄橙	CL'	100	7	0	●			
			灰褐	CL'	100	7	0	●			
			にぶい橙	CL'	100	7	0	●			
			灰褐	CL'	100	7	0	●			

第7.4.4.27図(2)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間) コア柱状図 (H27-B-1)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事
50				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	8	0	●	<ul style="list-style-type: none"> ●52.72~52.81m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・灰白色の礫混じり粘土状~明褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰白色礫混じり粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN15° E82° Eである。 ・傾斜は14° である。 ・上盤境界の傾斜は56°，下盤境界の傾斜は14° である。 ●53.17~53.22m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・灰褐色の砂混じり粘土状~明褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰褐色砂混じり粘土：累計厚2mm ・走向・傾斜はN27° E64° Wである。 ・傾斜は29° である。 ・上盤境界の傾斜は29°，下盤境界の傾斜は27° である。 ●59.82~59.85m ・破砕部である。(D-1破砕帯) ・正断層センスである。 ・灰褐~灰白色の粘土状~にぶい褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰褐~灰白色粘土：7mm ・走向・傾斜はN26° E80° Wである。 ・傾斜は28° である。 ・上盤境界の傾斜は22°，下盤境界の傾斜は28° である。 60.99~63.61m ・硬質であるが、割れ目が多い。 63.61~64.00m ・砂礫状を呈する。 64.33~66.07m ・硬質であるが、割れ目が多い。 67.80~67.93m ・砂礫状を呈する。 ●69.70~69.73m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・にぶい黄褐色の粘土状~灰黄色の粘土混じり礫状を呈する。 ・にぶい黄褐色粘土：累計厚1mm ・走向・傾斜はN25° E82° W ・傾斜は55° である。 ・上盤境界の傾斜は55°，下盤境界の傾斜は57° である。 73.35~73.38m ・幅25~40mmで締まった砂状を呈する。 ●74.36~74.50m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・灰褐色の粘土状~にぶい黄褐色の礫質粘土状を呈する。 ・灰褐色粘土：累計厚7mm ・走向・傾斜はN15° E87° W ・傾斜は30° である。 ・上盤境界の傾斜は27°，下盤境界の傾斜は30° である。 ●75.57~76.00m ・破砕部である。 ・灰褐色の礫混じり粘土~明褐~灰褐色の礫質粘土状~灰黄褐~明褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰褐色礫混じり粘土：累計厚12mm ・傾斜は68° である。 ・上盤境界の傾斜は25° である。 ●78.72~78.87m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・灰褐色の粘土状~にぶい黄褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰褐色粘土：累計厚2mm ・走向・傾斜はN17° E71° E ・傾斜は60° である。 ・上盤境界の傾斜は31°，下盤境界の傾斜は60° である。
					にぶい橙	CL'	100	4	0	●	
					にぶい黄橙	CL'	100	2	0	●	
					にぶい橙	CL'	100	2	0	●	
					灰褐	D'	100	1	0	●	
					灰白	D'	100	1	0	●	
					灰褐	D'	100	1	0	●	
					にぶい橙	CL'	100	2	0	●	
					にぶい黄橙	CL'	100	1	0	●	
					にぶい橙	D'	100	4	0	●	
					にぶい橙	CL'	100	6	0	●	
					にぶい橙	CL'	100	5	0	●	
					灰褐	D'	100	2	0	●	
					灰褐	CL'	100	4	0	●	
					にぶい橙	CL'	100	3	0	●	
					にぶい橙	D'	100	7	0	●	
					にぶい橙	D'	100	5	0	●	
					にぶい橙	CL'	100	6	0	●	
					にぶい橙	D'	100	5	0	●	
					にぶい橙	D'	100	2	0	●	
					にぶい橙	CL'	100	8	0	●	
					にぶい橙	CH'	100	13	13	●	
					にぶい橙	CM'	100	10	10	●	
					にぶい橙	D'	100	10	10	●	
					にぶい橙	CL'	100	16	16	●	
					にぶい橙	CM'	100	10	10	●	
					にぶい橙	CL'	100	9	0	●	
					にぶい橙	D'	100	9	0	●	
					にぶい橙	CM'	100	9	0	●	
					にぶい橙	CL'	100	12	12	●	
にぶい橙	CM'	100	12	12	●						
にぶい橙	D'	100	3	0	●						
にぶい橙	CL'	100	10	10	●						
にぶい橙	CL'	100	9	0	●						
灰褐	CL'	100	6	0	●						
灰褐	CL'	100	8	0	●						
にぶい黄橙	CM'	100	6	0	●						
灰褐	D'	100	3	0	●						
灰褐	D'	100	4	0	●						
灰褐	D'	100	5	0	●						
灰褐	D'	100	5	0	●						
にぶい黄橙	CL'	100	7	0	●						
にぶい橙	CL'	100	7	0	●						
にぶい橙	CL'	100	7	0	●						
灰褐	CL'	100	7	0	●						
にぶい橙	CL'	100	7	0	●						
灰褐	CL'	100	7	0	●						

第7.4.4.27図(3)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間) コア柱状図 (H27-B-1)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記事	
												0 20 40 60 80 100
130			+	花崗斑岩		灰褐	CM'	100	15	25		119.30~138.00m ・硬質であるが、全体に割れ目が多く、岩片～短柱状を主体とする。
							CH'	100	24	34		
							CM'	100	5	0		
								100	8	0		
							褐灰	CL'	100	6		0
								CM'	100	8		0
							にふい 種 灰黄褐	CL'	100	8		0
								CM'	100	10		10
							花崗斑岩	CL'	100	9		0
								CM'	100	8		0
							褐灰	CH'	100	11		11
								CH'	100	16		26
							CM'	100	28	53		
								100	11	11		
							CM'	100	7	0		
100	9	0										
CM'	100	6	0									
	100	9	0									
CL'	100	11	11									
	100	6	0									
暗緑灰 褐灰	CL'	100	12	23								
	CL'	100	3	0								

第7.4.4.27図(4)_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図 (H27-B-1)

H27-B-2

孔 口 標 高	T. P. 20.11m	掘 削 長	160.00m
---------	--------------	-------	---------

標 尺 m	標 高 m	深 度 m	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R Q D (%)	コ ア 採 取 率 (%)		記 事	
										最 大 コ ア 長 (cm)	コ ア 長 (cm)		
10	19.62	0.70		コンクリート			100					0.00~0.70m ・コンクリートである。	
				灰黄褐			100					0.70~12.33m ・盛土である。 ・最上部300mmは碎石である。	
				にぶい黄橙			100						
				にぶい黄			100						
				灰褐			100						
				褐灰			100						
				明黄褐			100						
				黄褐			100						
		11.39		12.33	砂礫			100					12.33~12.75m ・砂礫である。 ・最大径200mmの礫を含む。
		11.09		12.75	砂礫			100					12.75~13.53m ・礫混じり砂である。
20	10.54	13.53	砂礫			100					13.53~133.75m ・花崗斑岩である。		
			にぶい橙			100	3	0					
			にぶい黄橙			100	3	0					
			明褐灰			100	4	0					
			明褐灰			100	4	0					
			にぶい橙			100	10	10					
			にぶい橙			100	6	0					
			花崗斑岩		CL	100	12	12				19.59~19.80m ・10mm程度の間隔で、割れ目が分布する。	
			明褐灰			100	8	0				21.79~26.82m ・割れ目沿いに砂状化している部分が多い。	
			明褐灰			100	23	23				28.02~29.88m ・割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。	
			明褐灰			100	15	27				●31.15~31.66m ・破碎部である。 ・正断層センスである。 ・灰黄色の砂混じり粘土状~明赤灰色の礫質粘土状~にぶい黄橙~にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈する。	
			明褐灰			100	7	0				・灰黄色砂混じり粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN7° 78° Wである。 ・傾斜は38° である。 ・上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は43° である。	
			明褐灰			100	11	11				●34.37~34.48m ・破碎部である。 ・左ずれセンスである。	
			明褐灰			100	9	0				・黒褐色の粘土状~浅黄色~明赤灰色の礫質粘土状を呈する。	
			明褐灰			100	3	0				・黒褐色粘土：6mm ・走向・傾斜はN14° W40° Wである。 ・傾斜は13° である。	
		明褐灰			100	4	0				・上盤境界の傾斜は13°、下盤境界の傾斜は20° である。		
		明褐灰			100	35	46				●35.36~35.46m ・破碎部である。		
		明褐灰			100	35	73				・灰白~灰褐色の粘土状~灰黄~褐色の粘土混じり礫状~粘土質礫状を呈する。		
		明褐灰			100	35	92				・灰白~灰褐色粘土：15mm ・走向・傾斜はN69° E79° Wである。 ・傾斜は47° である。 ・上盤境界の傾斜は47°、下盤境界の傾斜は20° ~35° である。		
		明褐灰			100	35	92				●35.68~35.73m ・破碎部である。		
		明褐灰			100	35	92				・灰黄色の粘土状~淡黄色の礫質粘土状~明褐灰色の粘土質礫状を呈する。		
		明褐灰			100	35	92				・灰黄褐色粘土：2mm ・傾斜は12° である。 ・上盤境界の傾斜は27°、下盤境界の傾斜は12° である。		
		明褐灰			100	35	92				●35.92~35.95m ・破碎部である。		
		明褐灰			100	35	92				・灰オリーブ色の粘土状~灰白色の礫質粘土状を呈する。		
		明褐灰			100	35	92				・灰オリーブ色粘土：5mm ・走向・傾斜はN4° E86° Wである。 ・傾斜は35° である。 ・上盤境界の傾斜は35°、下盤境界の傾斜は45° である。		

第7.4.4.28図(1)_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間) コア柱状図 (H27-B-2)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記事	
												0 20 40 60 80 100
40			+	花崗斑岩	照褐灰	D'	100	3	0		41.90~43.94m ・砂~砂礫状を呈する。 47.06~47.50m ・角礫状を呈する。 ●48.88~48.92m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる。 ・黒褐色の砂混じり粘土状~灰黄褐~黒褐色の礫質粘土状を呈する。 ・黒褐色砂混じり粘土：累計厚1mm ・走向・傾斜はN40° E76° Wである。 ・傾斜は56°である。 ・上盤境界の傾斜は56°、下盤境界の傾斜は53°である。 51.51~52.42m ・割れ目沿いに砂状化しており、一部砂礫状を呈する。 ●54.72~54.77m ・破碎部である。 ・左ずれセンスである。 ・灰褐色の粘土状~明褐灰色の礫質粘土状を呈する。 ・灰褐色粘土：累計厚3mm ・走向・傾斜はN8° W79° Wである。 ・傾斜は39°である。 ・上盤境界の傾斜は48°、下盤境界の傾斜は39°である。 57.70~57.99m ・締まった砂状を呈する。 59.71~60.00m ・砂~砂礫状を呈する。	
					明黄褐	CL'						
					にふい	D'	100	2	0			
					黄褐	CL'						
					にふい	D'	100	1	0			
					橙	CL'						
					灰褐	D'	100	2	0			
					明褐灰	CL'	100	3	0			
					淺黄	CL'	100	5	0			
					にふい	D'	100	7	0			
					橙	CL'	100	10	10			
					明褐灰	CL'	100	8	0			
					にふい	D'	100	8	0			
					橙	CL'	100	8	0			
					明褐灰	D'	100	2	0			
					にふい	CL'	100	5	0			
					橙	D'	100	3	0			
					にふい	CL'	100	3	0			
					黄褐	D'	100	3	0			
					明褐灰	CL'	100	3	0			
にふい	D'	100	5	0								
橙	CL'	100	3	0								
明褐灰	D'	100	4	0								
にふい	CL'	100	8	0								
橙	D'	100	14	14								
にふい	CL'	100	10	10								
橙	D'	100	9	0								
にふい	CL'	100	11	11								
黄褐	CL'	100	4	0								
明褐灰	D'	100	4	0								
にふい	CL'	100	3	0								
橙	D'	100	3	0								
明褐灰	CL'	100	2	0								
灰黄褐	D'	100	3	0								
にふい	CL'	100	9	0								
黄褐	D'	100	3	0								
にふい	CL'	100	9	0								
橙	D'	100	3	0								

第7.4.4.28図(2)_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図 (H27-B-2)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D [%]	記 事	
													0 20 40 60 80 100
70			+	花崗斑岩	灰褐色	CL'	100	2	0				<ul style="list-style-type: none"> ●60.26~60.69m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・明褐色の粘土状~にぶい黄褐色~明褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・明褐色粘土：累計厚12mm ・N18° E77° W ・傾斜は18°である。 ・上盤境界の傾斜は28°，下盤境界の傾斜は27°である。 ●61.29~61.69m(D-1破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・灰黄褐色の粘土状~にぶい橙~灰白色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰黄褐色粘土：15mm ・走向・傾斜はN8° E89° Wである。 ・傾斜は50°である。 ・上盤境界の傾斜は45°，下盤境界の傾斜は60°である。 ●63.75~63.85m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・灰褐色の礫質粘土状~にぶい橙色の粘土・砂混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN47° W24° Eである。 ・傾斜は46°である。 ・上盤境界の傾斜は3°，下盤境界の傾斜は47°である。 ●68.27~68.34m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・淡黄色の粘土状~にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈する。 ・淡黄色粘土：2mm ・走向・傾斜はN23° E74° Wである。 ・傾斜は41°である。 ・上盤境界の傾斜は41°，下盤境界の傾斜は20°~40°である。 71.06~71.89m ・割れ目の交差部で，一部砂~砂礫状を呈する。 71.88~76.11m ・硬質であるが，割れ目沿いに一部砂状化している。 ・割れ目には，挟在物が見られないものが多い。 76.11~77.02m ・割れ目の交差部で，岩片~角礫状を呈する。 77.02~79.47m ・硬質であるが，割れ目が多い。 80.48~83.12m ・硬質で割れ目が少なく，柱状を呈する。 83.12~83.79m ・割れ目沿いに，砂状化している。 ●85.58~85.76m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・淡黄色の礫混じり粘土状~灰黄~淡黄~にぶい橙色の粘土・砂混じり礫状を呈する。 ・淡黄色礫混じり粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN15° E82° Wである。 ・傾斜は48°である。 ・上盤境界の傾斜は40°，下盤境界の傾斜は32°である。 ●88.38~88.43m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・明黄褐色の粘土状~にぶい橙色の砂混じり礫状を呈する。 ・明黄褐色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN26° E84° Eである。 ・傾斜は50°である。 ・上盤境界の傾斜は50°，下盤境界の傾斜は50°である。 ●88.88~88.94m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・灰白色の礫混じり粘土状~にぶい黄褐色の粘土・砂混じり礫状を呈する。 ・灰白色礫混じり粘土：累計厚20mm ・走向・傾斜はN35° E72° Wである。 ・傾斜は30°である。 ・上盤境界の傾斜は30°，下盤境界の傾斜は30°である。
						CL'	100	4	0				
						D'	100	2	0				
						CH'	100	18	34				
						D'	100	17	17				
						CL'	100	6	0				
						CL'	100	15	15				
						D'	100	4	0				
						CM'	100	10	10				
						CL'	100	13	37				
						CL'	100	11	11				
						CM'	100	15	26				
						CM'	100	18	18				
						CM'	100	8	0				
						CL'	100	27	27				
						CM'	100	15	27				
						CM'	100	15	15				
						CL'	100	8	0				
						CM'	100	10	20				
						CH'	100	23	66				
CH'	100	45	68										
CL'	100	11	11										
CM'	100	12	12										
CL'	100	2	0										
CL'	100	4	0										
CL'	100	12	22										
CH'	100	10	10										
D'	100	1	0										

第7.4.4.28図(3)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間) コア柱状図 (H27-B-2)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記事	
												0 20 40 60 80 100
100			+	花崗斑岩	灰褐色	D'	100	2	0		<ul style="list-style-type: none"> ●91.69~91.76m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・明褐色~灰褐色の粘土状~灰白色の礫質粘土状~にぶい褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・明褐色~灰褐色粘土：累計厚8mm ・走向・傾斜はN5° W82Wである。 ・傾斜は51°である。 ・上盤境界の傾斜は51°、下盤境界の傾斜は45°である。 	
						CL'	100	3	0			
						緑灰	CL'	100	5	0		
							CH'	100	9	0		
							CH'	100	12	12		
							CH'	100	25	27		
							CH'	100	15	27		
							CH'	100	7	0		
						CM'	100	9	0			
						緑灰	CL'	100	11	11		
							CL'	100	4	0		
						緑灰	CM'	100	6	0		
							CM'	100	4	0		
						灰褐色	CL'	100	4	0		
							CL'	100	6	0		
						明褐色	CL'	100	5	0		
							CM'	100	14	24		
						灰褐色	CL'	100	17	17		
							CL'	100	14	14		
						灰褐色	CL'	100	6	0		
CL'	100	5	0									
灰褐色	CL'	100	9	0								
	CM'	100	11	11								
灰褐色	CL'	100	4	0								
	CL'	100	9	0								
緑灰	CL'	100	9	0								
	CL'	100	8	0								
にぶい褐色	CL'	100	9	0								
	CL'	100	9	0								
灰褐色	CM'	100	8	0								
	CM'	100	6	0								
明褐色	CL'	100	5	0								
	CL'	100	5	0								

第7.4.4.28図(4)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図 (H27-B-2)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)		記 事		
										最大 コア長 (cm)	R Q D [%]			
				花崗斑岩	灰褐	CM'	100	10	10			<ul style="list-style-type: none"> ●120.53~120.55m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・オリブ灰色の粘土状~礫質粘土状を呈する。 ・オリブ灰色粘土：3mm ・傾斜は32°である。 ・上盤境界の傾斜は12°~32°、下盤境界の傾斜は32°である。 ●123.41~125.38m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 125.38m ・割れ目沿いに、細片化している。 ●127.41~127.48m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・灰白色の粘土状~にぶい黄褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰白色粘土：累計厚1mm ・走向・傾斜はN18° E82Eである。 ・傾斜は50°である。 ・上盤境界の傾斜は50°、下盤境界の傾斜は50°~66°である。 ●128.82~128.97m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・暗緑灰色の砂混じり粘土状~灰赤色の粘土砂混じり礫状を呈する。 ・暗緑灰色砂混じり粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN28° E81° Eである。 ・傾斜は63°である。 ・上盤境界の傾斜は30°、下盤境界の傾斜は62°である。 130.79~131.79m ・割れ目沿いに、砂状化している。 133.75~134.23m ・アプライトである。 ●133.75~133.92m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・明緑灰色の粘土状~緑灰色の礫質粘土~緑灰~オリブ灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・明緑灰色粘土：累計厚1mm ・走向・傾斜はN1° E72Eである。 ・傾斜は45°である。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は50°である。 ●134.15~134.23m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・オリブ灰~暗オリブ灰の粘土状~オリブ灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・オリブ灰~暗オリブ灰色粘土：累計厚20mm ・走向・傾斜はN16° E67° Eである。 ・傾斜は75°である。 ・上盤境界の傾斜は75°である。 134.23~136.54m ・花崗斑岩である。 135.34~145.65m ・割れ目が多く、岩片状~一部土砂状を呈する。 136.54~136.56m ・暗緑灰色の礫状を呈する。 136.56~160.00m ・花崗斑岩である。 141.96~142.23m ・割れ目が細かく交差し、細片化している。 145.65~148.26m ・砂礫~礫質砂状を呈する。 ・一部灰白~暗緑灰色の粘土脈を挟む。 149.19~149.67m ・砂礫状を呈する。 ・灰白色粘土が点在する。 		
							CL'	100	23	79				
							CL'	100	10	10				
							CL'	100	12	12				
							CM'	100	10	10				
							CL'	100	15	30				
							CL'	100	7	0				
							CL'	100	8	0				
							CL'	100	3	0				
							CL'	100	4	0				
							CM'	100	5	0				
							CL'	100	3	0				
							D'	100	3	0				
							CL'	100	2	0				
							CL'	100	5	0				
					D'	100	3	0						
					CL'	100	4	0						
					CL'	100	3	0						
					CL'	100	3	0						
					CL'	100	5	0						
					CL'	100	5	0						
					CL'	100	4	0						
					CL'	100	7	0						
					CL'	100	6	0						
					D'	100	2	0						
					D'	100	4	0						
					CL'	100	6	0						
					D'	100	5	0						
					CL'	100	5	0						

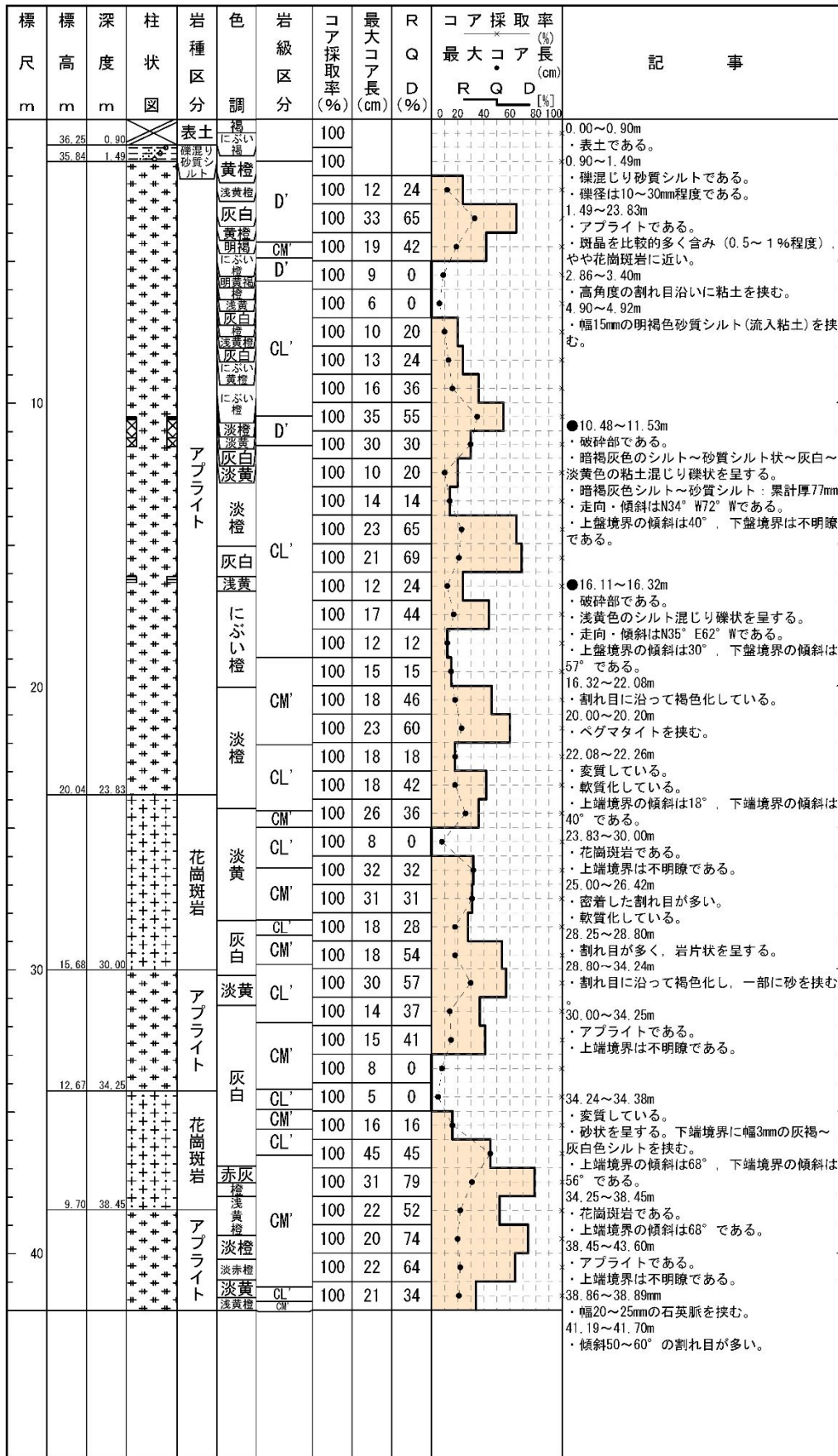
第7.4.4.28図(5)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間) コア柱状図 (H27-B-2)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記事		
												0	20
				花崗斑岩	褐灰	CL'	100	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ●152.10~152.15m ・破砕部である。 ・砂質粘土状~にぶい橙~緑灰~明褐灰色の砂・粘土混じり礫状を呈する。 ・砂質粘土：累計厚1mm ・傾斜は68°である。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は55°である。 ●154.53~154.71m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・褐灰~灰赤色の粘土状~明緑灰~緑灰~灰褐色の礫質粘土状~にぶい橙~明緑灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・褐灰~灰赤色粘土：累計厚5mm ・傾斜は36°である。 ・上盤境界の傾斜は63°、下盤境界の傾斜は65°~80°である。 157.89~160.00m ・割れ目沿いの緑泥石化が著しい。 			

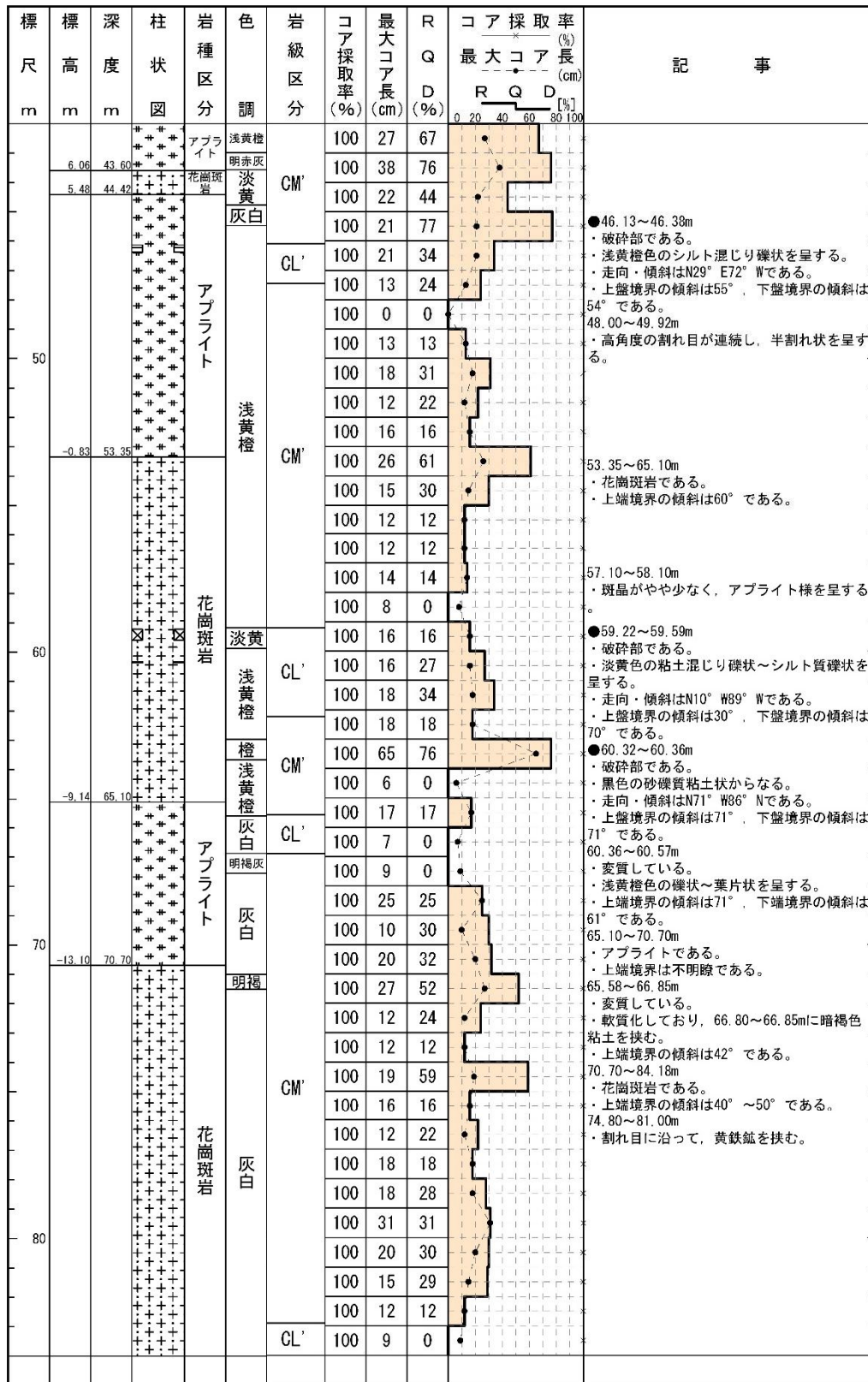
第7.4.4.28図(6)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図 (H27-B-2)

H19-No. 4

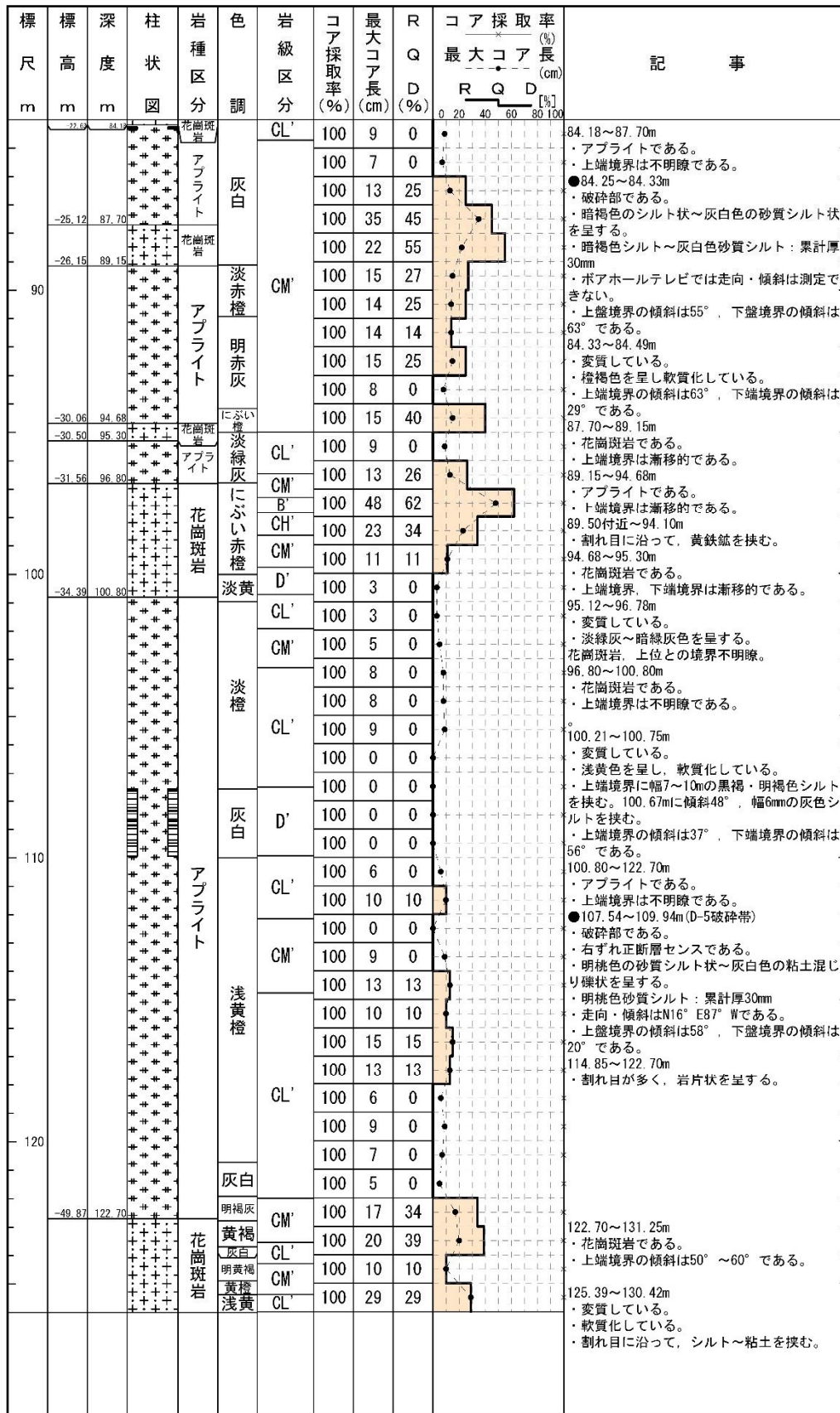
孔 口 標 高	T.P.	36.89m	掘 削 長	250.00m
---------	------	--------	-------	---------



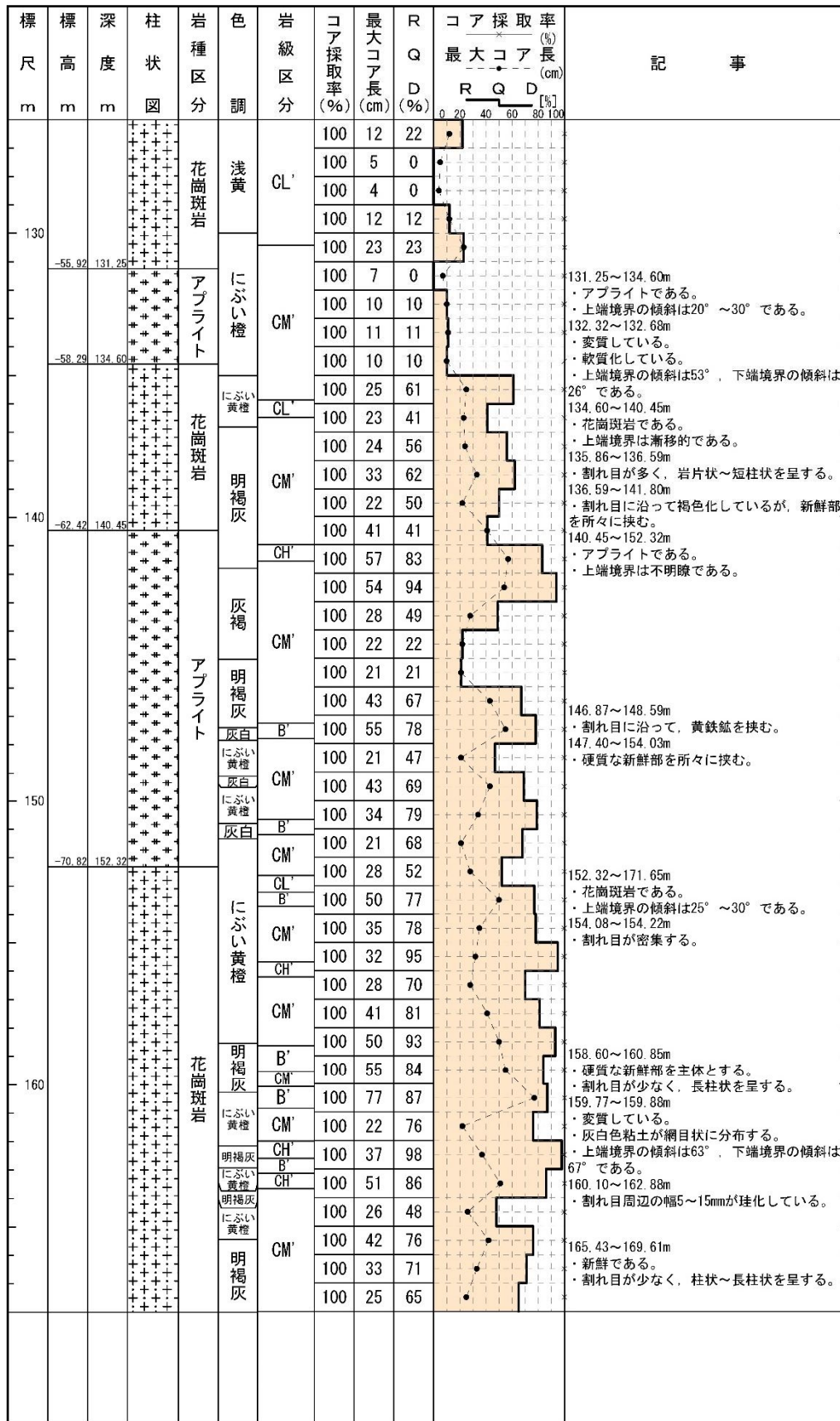
第7.4.4.155図(1)_D-6破砕帯及びD-5破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No. 4)



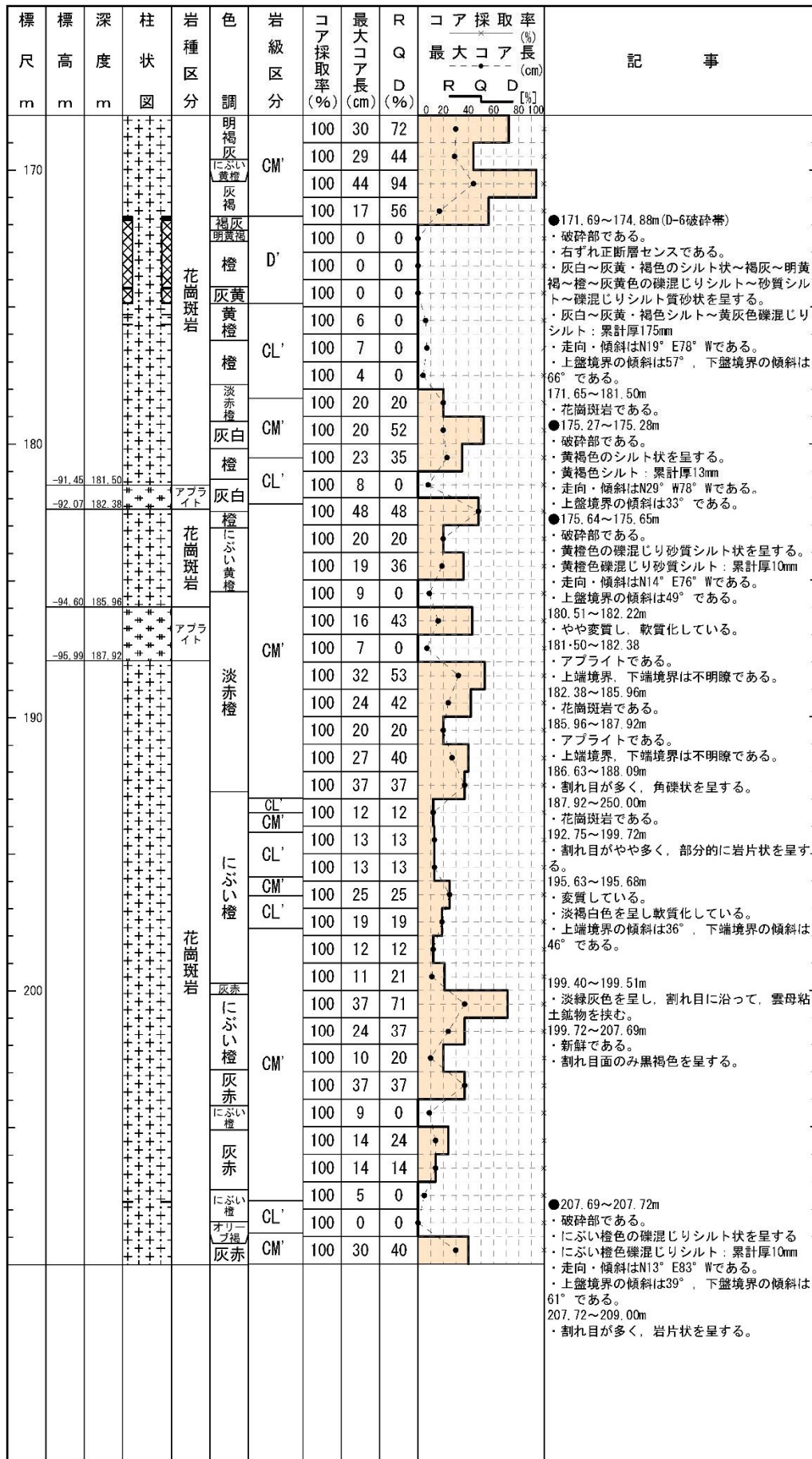
第7.4.4.155図(2)_D-6破砕帯及びD-5破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H19-No. 4)



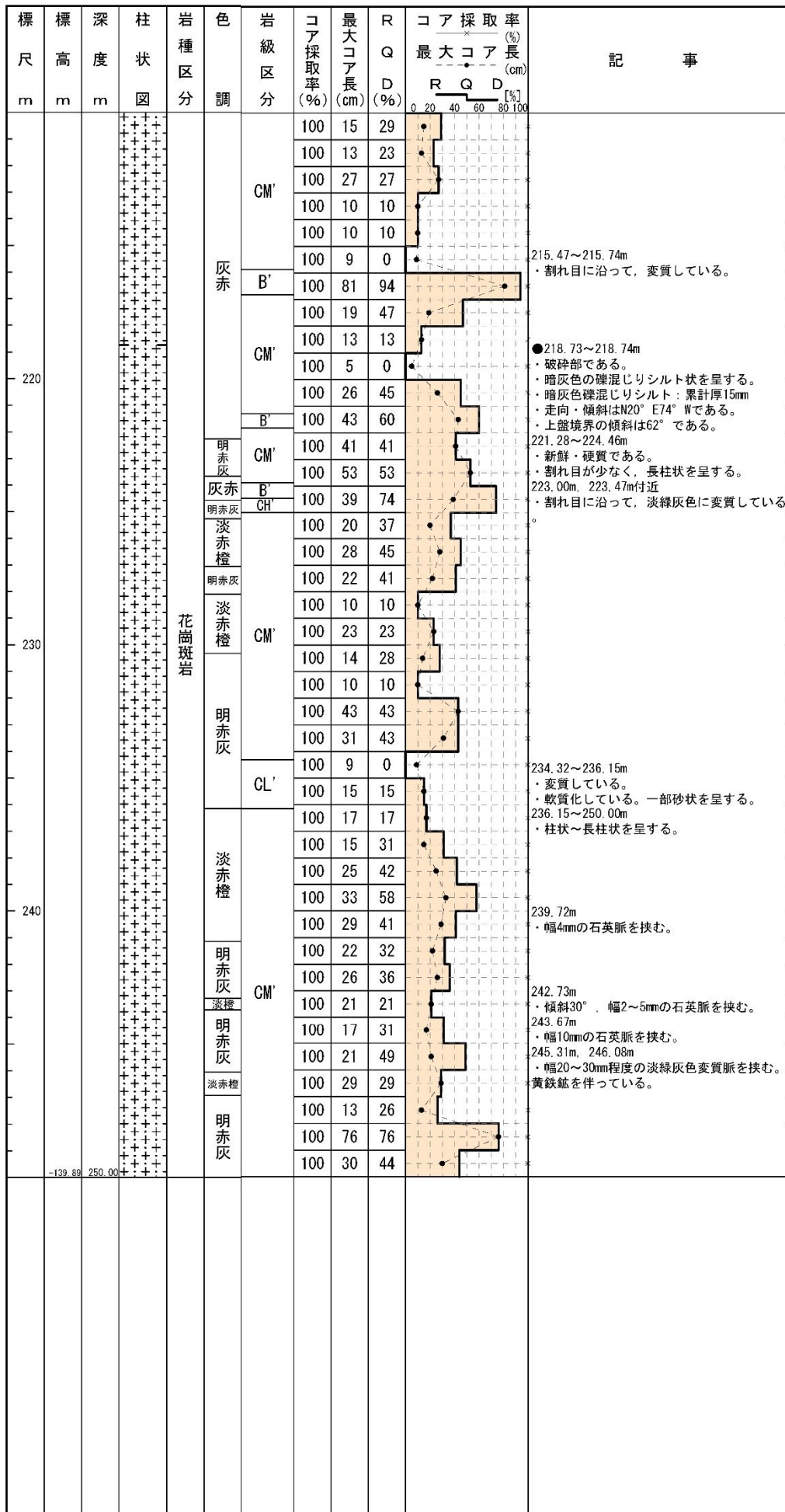
第7.4.4.155図(3)_D-6破碎帯及びD-5破碎帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No.4)



第7.4.4.155図(4)_D-6破碎帯及びD-5破碎帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H19-No.4)



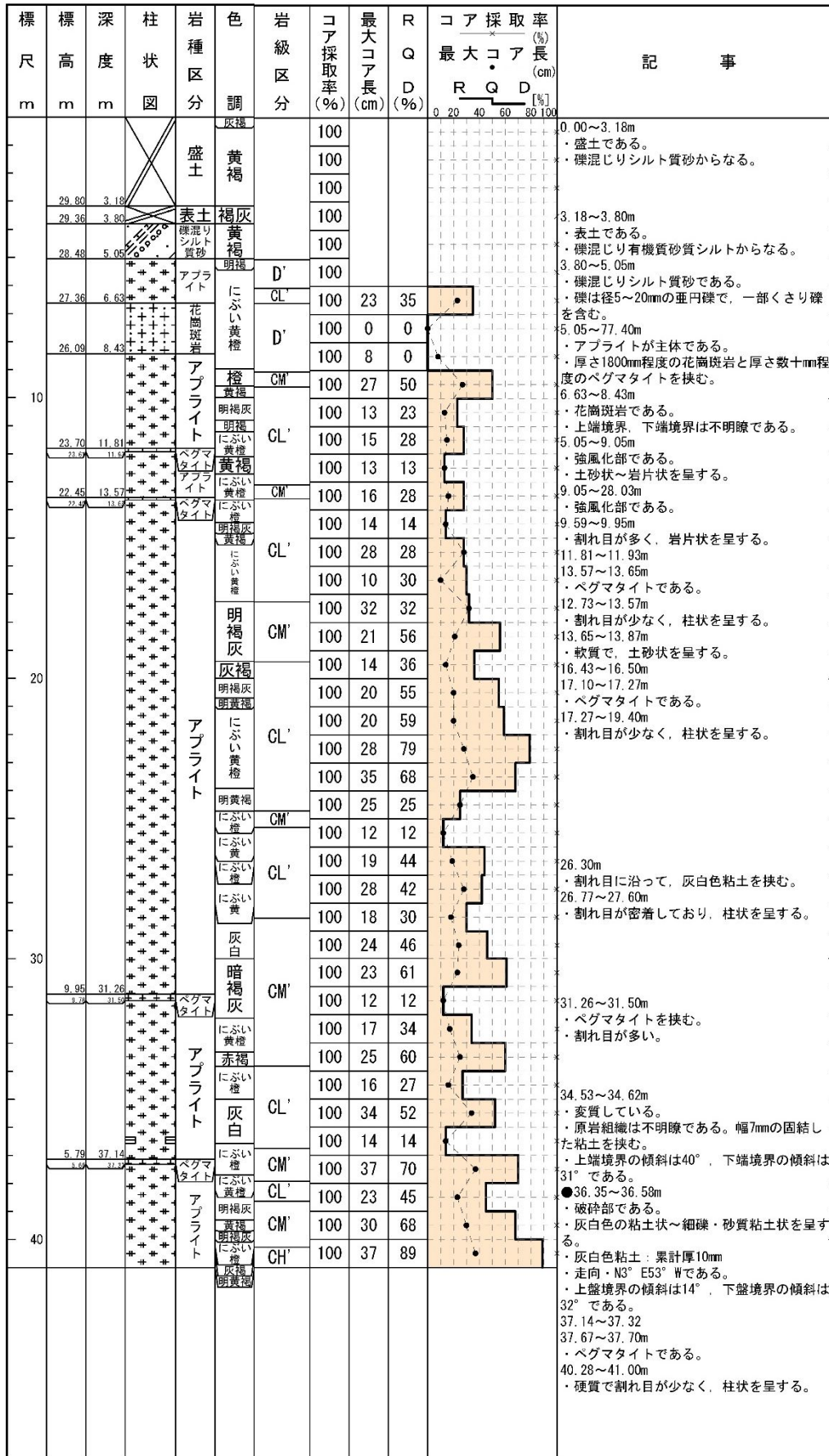
第7.4.4.155図(5)_D-6破碎帯及びD-5破碎帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No.4)



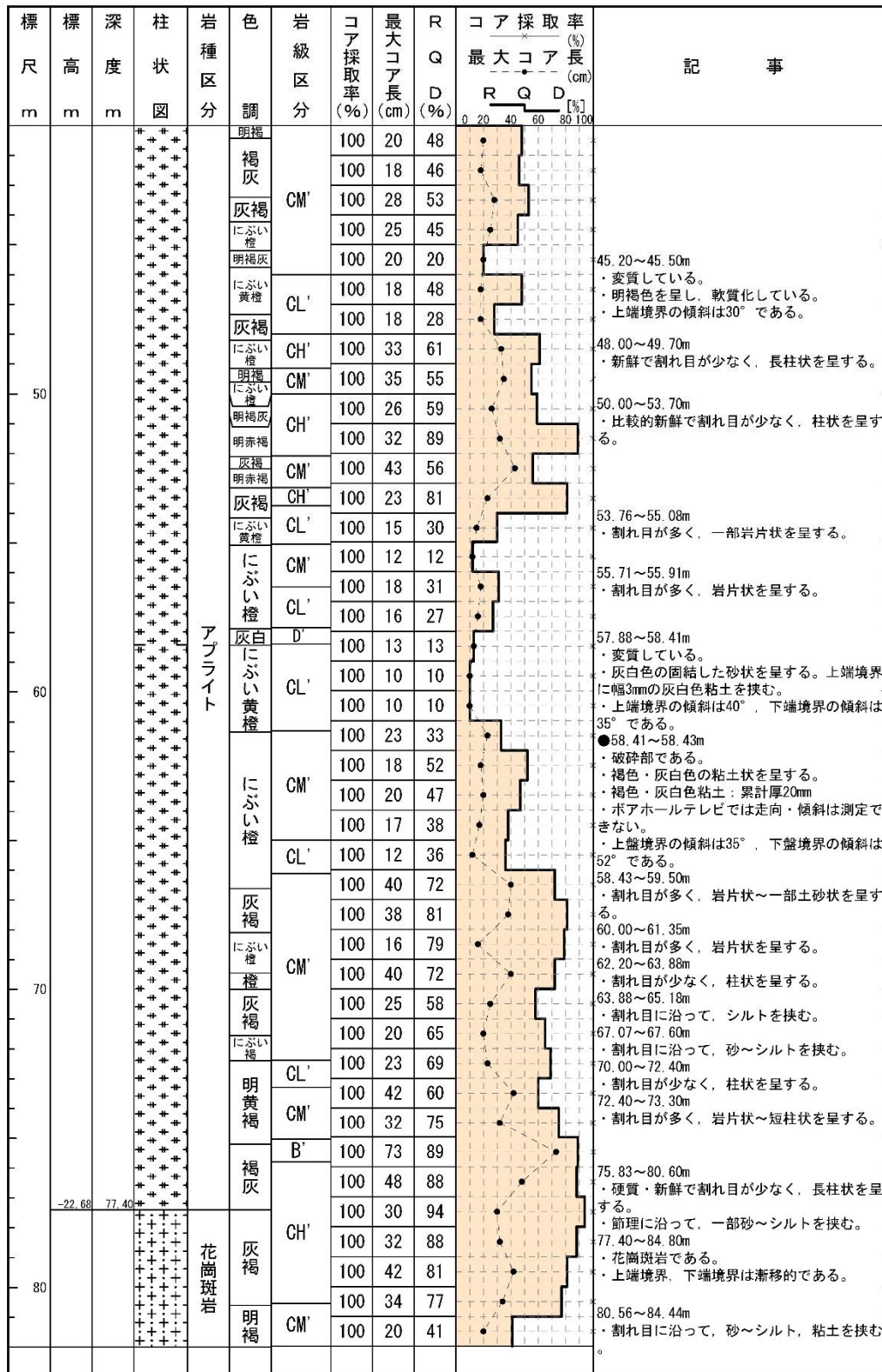
第7.4.4.155図(6)_D-6破碎帯及びD-5破碎帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H19-No. 4)

H19-No. 12

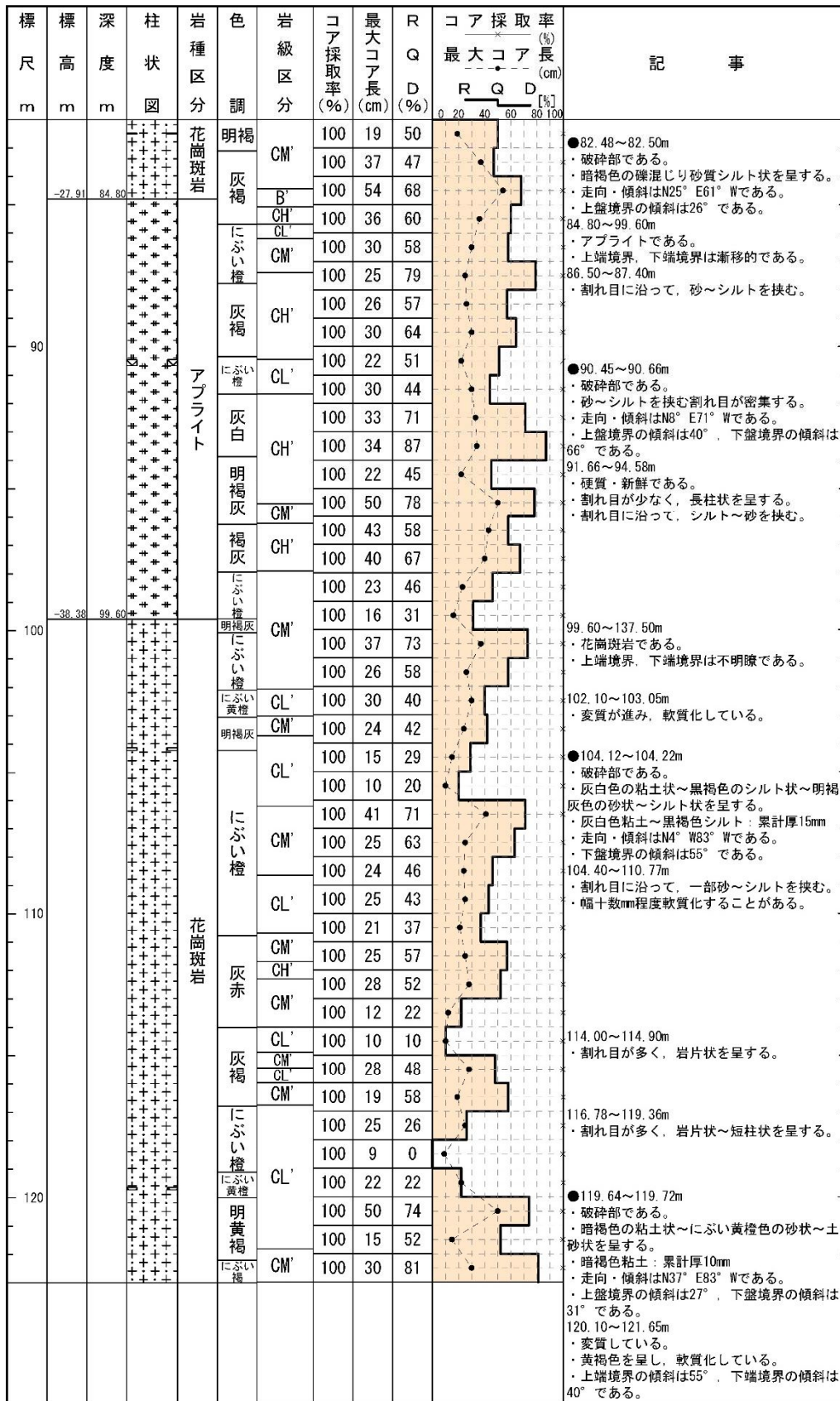
孔口標高	T.P. 32.05m	掘削長	250.00m
------	-------------	-----	---------



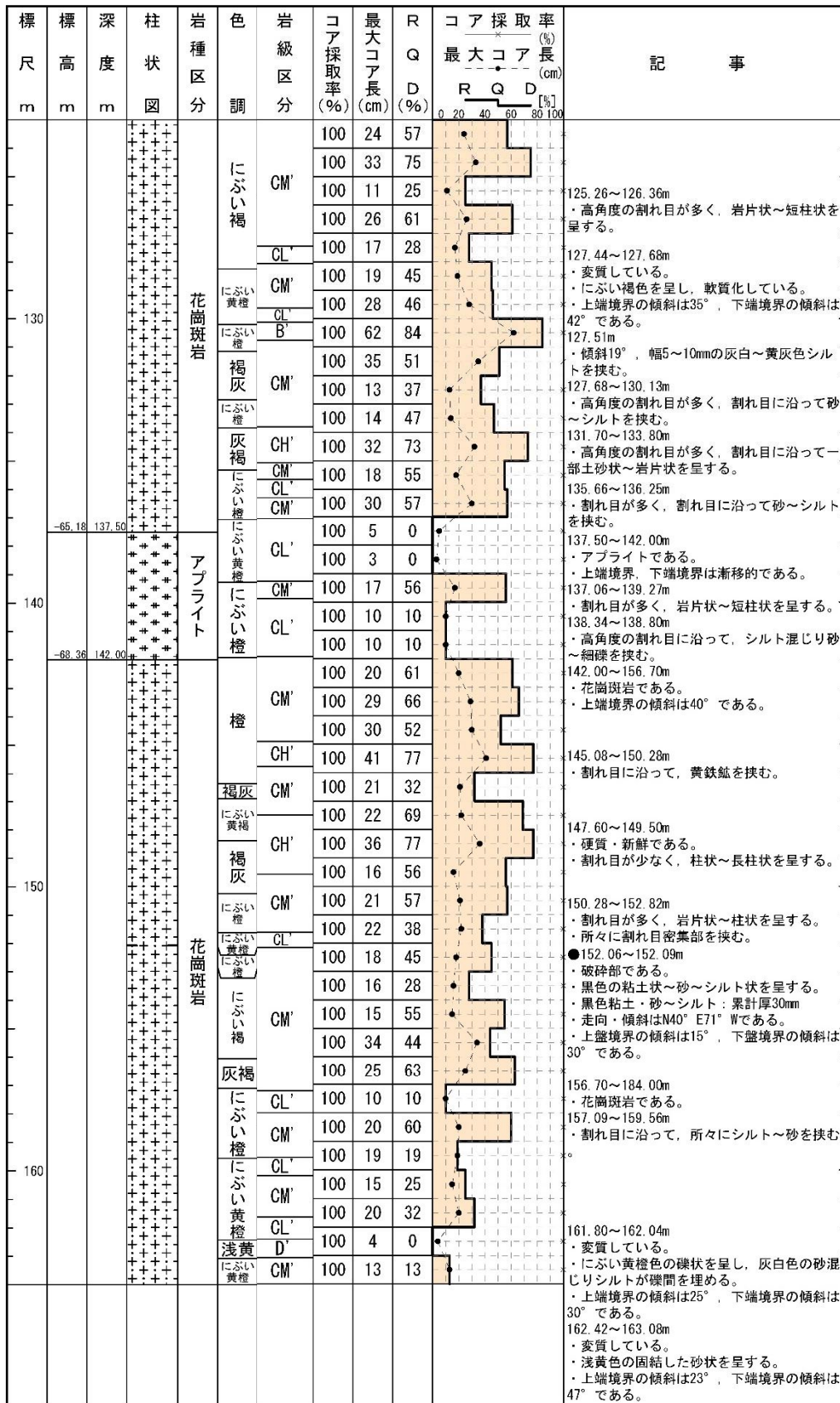
第7.4.4.156図(1)_D-6破碎帯及びD-5破碎帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No. 12)



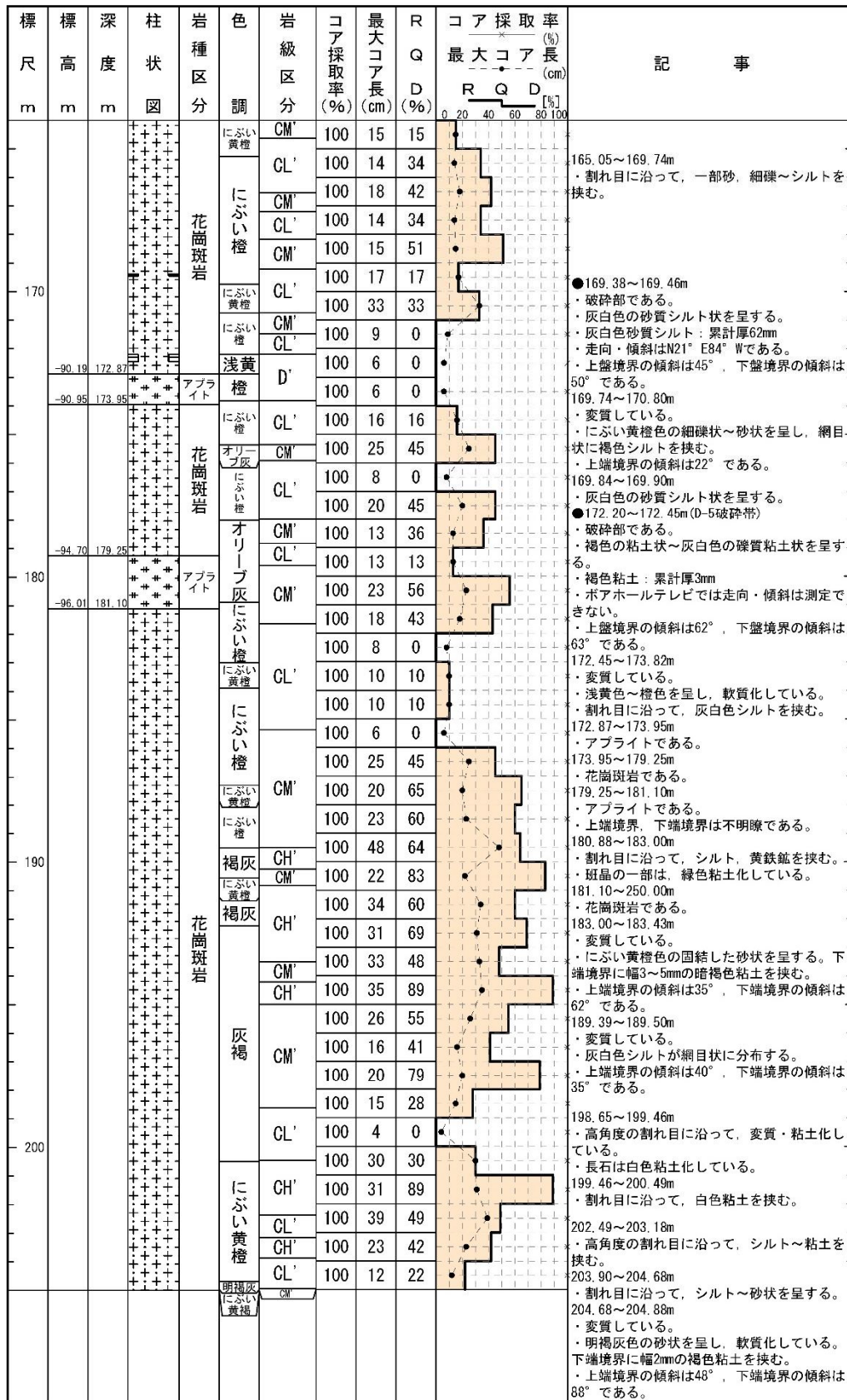
第7.4.4.156図(2)_D-6破砕帯及びD-5破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No.12)



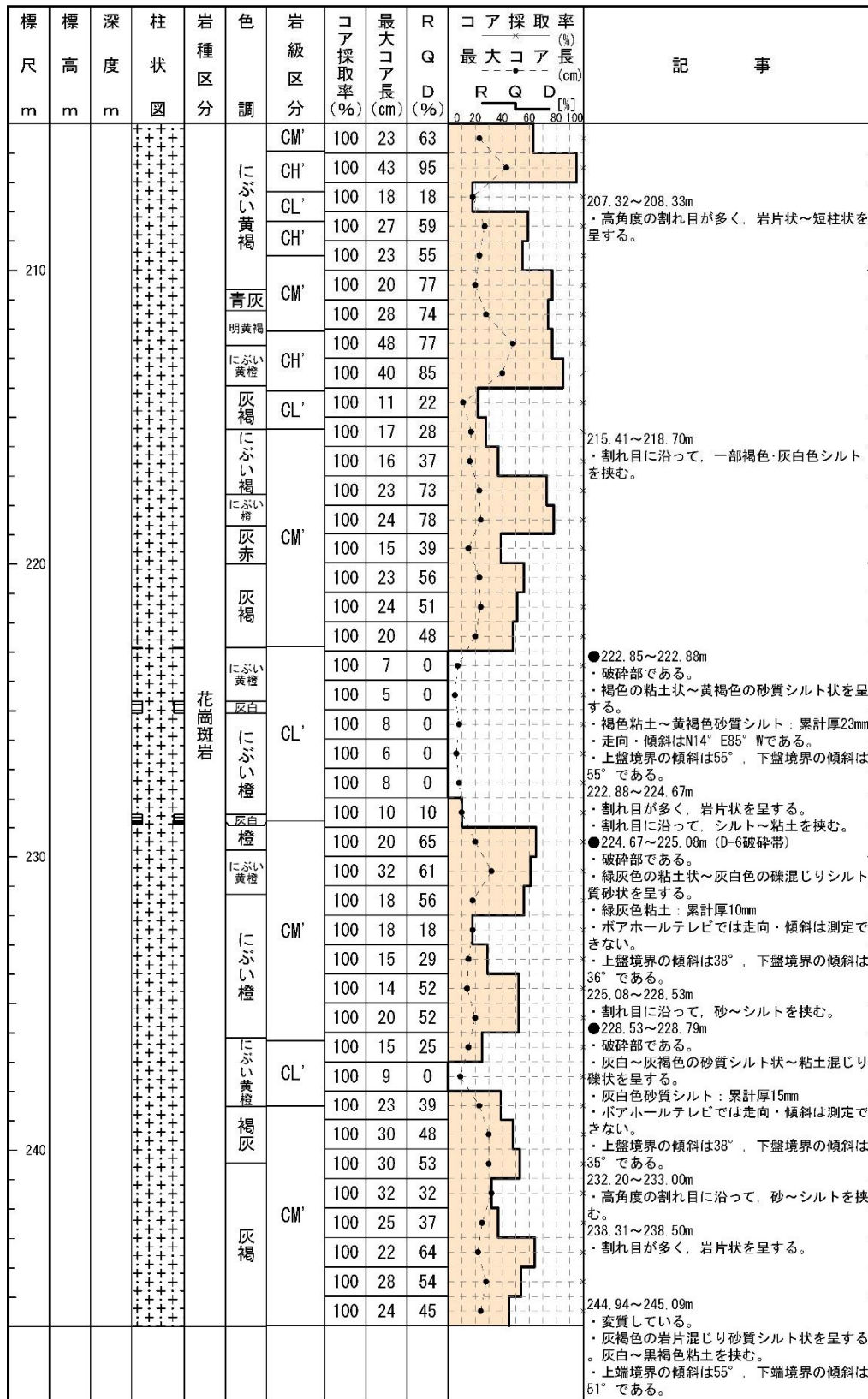
第7.4.4.156図(3)_D-6破砕帯及びD-5破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No. 12)



第7.4.4.156図(4)_D-6破砕帯及びD-5破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No.12)



第7.4.4.156図(5)_D-6破碎帯及びD-5破碎帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No.12)



第7.4.4.156図(6)_D-6破砕帯及びD-5破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No. 12)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D [%]	記事
		-144.73 250.00		花崗斑岩	灰褐	CM'	100	15	68	●		<p>●247.57~247.64m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・破砕部である。 ・灰褐色のシルト混じり礫状を呈する。幅1~5mmの灰白色砂質シルトを網目状に挟む。 ・ボアホールテレビでは走向・傾斜は測定できない。 ・上盤境界の傾斜は41°、下盤境界の傾斜は47°である。
					にぶい 黄橙	CL'	100	13	35	●		
					灰褐	CM'	100	17	32	●		
					灰褐	CM'	100	30	77	●		

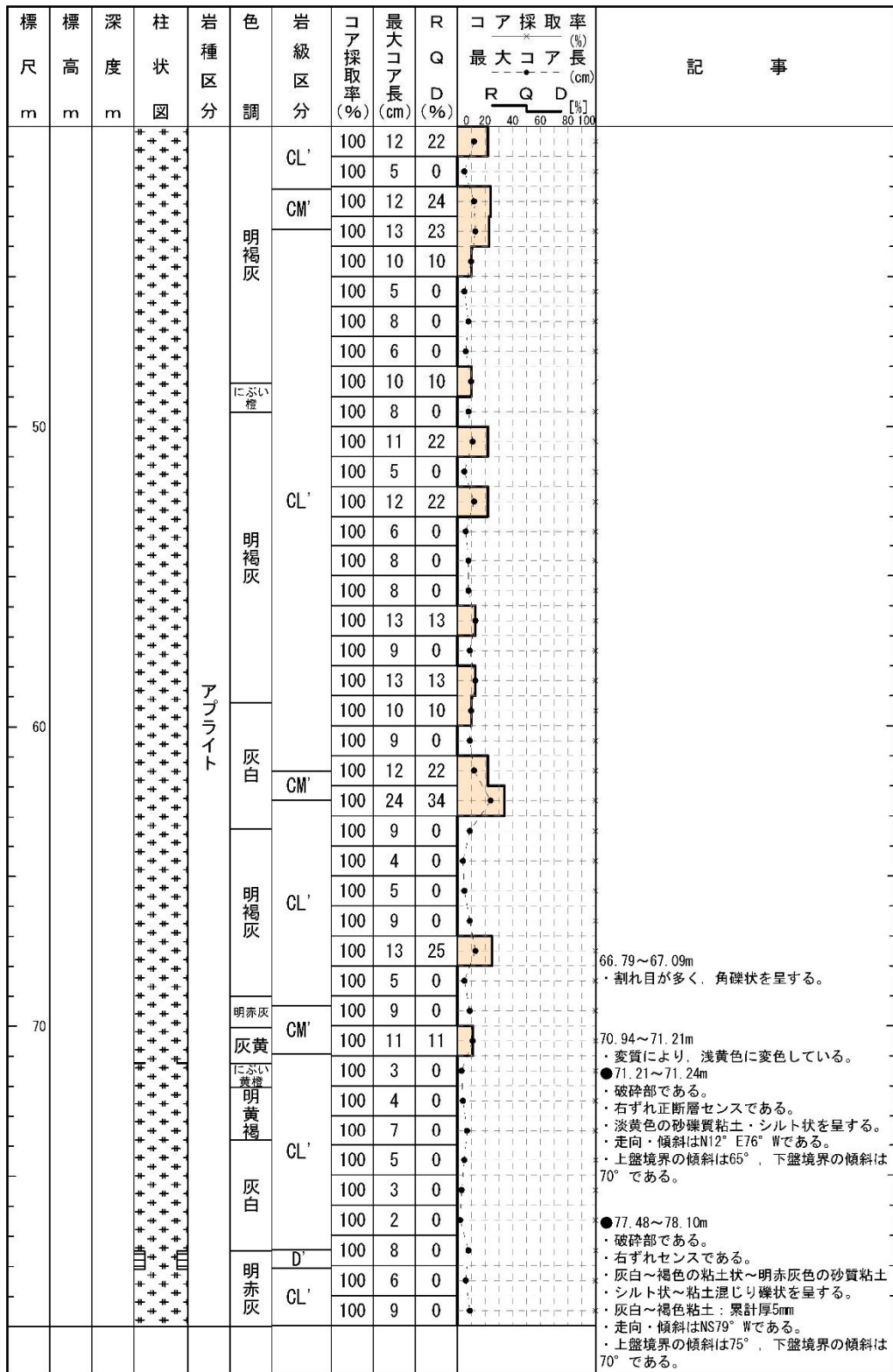
第7.4.4.156図(7)_D-6破砕帯及びD-5破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H19-No. 12)

H24-B11-2

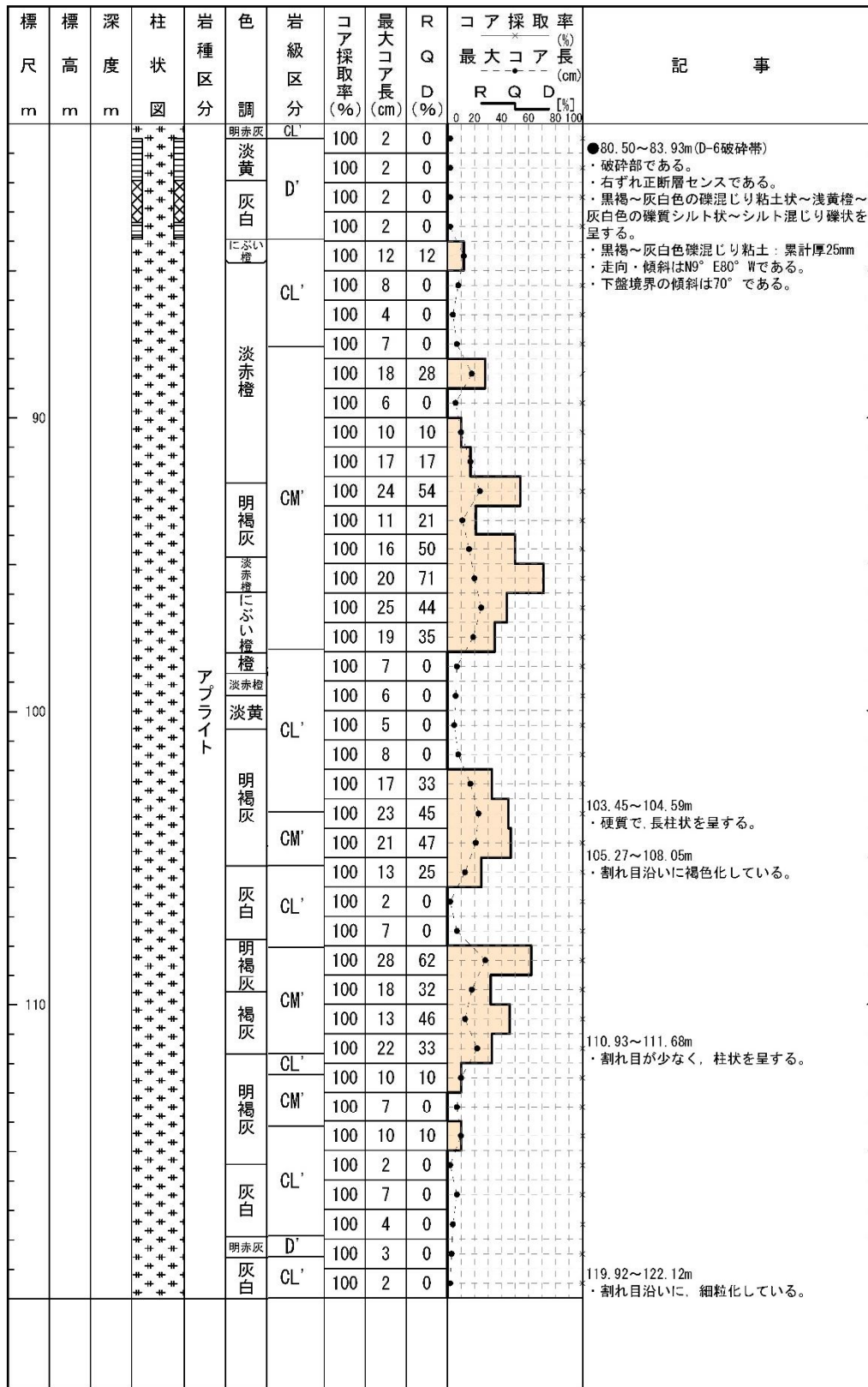
孔口標高	T.P.	3.14m	掘削長	150.00m
------	------	-------	-----	---------

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事	
										最大 コア 長 (cm)	R	Q		D
				埋土	にぶい黄褐		100						0.00~5.00m ・埋土である。	
					灰黄褐		100							
					にぶい黄		100							
					明黄褐		100							
		-0.40	5.00	礫混り砂	にぶい黄橙		100						5.00~7.59m ・礫混り砂である。	
					黄褐		100							
		-2.23	7.59		灰黄		100							
10				砂	灰黄褐		100						7.59~13.92m ・砂である。 ・中粒~粗粒砂が主体である。	
					灰黄		100							
					黄灰		100							
					灰		100							
			-6.70	13.92	礫混り砂	にぶい黄橙		100					13.92~14.94m ・礫混り砂である。 ・細礫の混る粗粒砂が主体である。	
			-7.42	14.94		灰		100						
20				砂	灰黄		100						14.94~17.04m ・砂である。 ・粗粒砂が主体である。	
					灰		100							
			-8.91	17.04	礫混り砂	にぶい黄橙		100					17.04~18.73m ・礫混り砂である。 ・粗粒砂が主体である。	
			-10.10	18.73		礫質砂		100						
			-10.33	19.05	黄灰	有機質土混り砂		100					18.73~19.05m ・礫質砂である。 ・有機物を少量含む。	
			-12.90	22.69		有機質土混り砂		100						19.05~22.69m ・有機質土混り砂である。
			-14.63	25.13		シルト・礫混り砂/砂互層		100						
			-15.38	26.19	礫混りシルト質砂	褐灰		100					22.69~25.13m ・シルト・礫混り砂、砂礫互層である。 ・中粒砂が主体で、径10~50mmの垂円礫を40~60%含む。	
				灰オリーブ			100					25.13~26.19m ・礫混りシルト質砂である。		
30				アブライト	明褐灰	CL'	100							26.19~123.51m ・アブライトである。
					明褐灰	CM'	100	20	42					
				アブライト	淡橙明褐	CL'	100	10	10				28.17~28.37m ・風化部である。	
					明褐灰	CL'	100	15	15					
					明褐灰	CM'	100	11	11					
					明褐灰	CM'	100	29	54					
				アブライト	灰白	D'	100	14	24				34.05~34.73m ・風化部である。	
					灰白	D'	100	4	0					
				アブライト	にぶい黄橙	CL'	100	6	0					
					にぶい黄橙	D'	100	1	0					
			明褐灰		D'	100	6	0						
			明褐灰		CM'	100	6	0						
				明褐灰	CM'	100	20	47				39.94~42.09m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。		
				明褐灰	CL'	100								

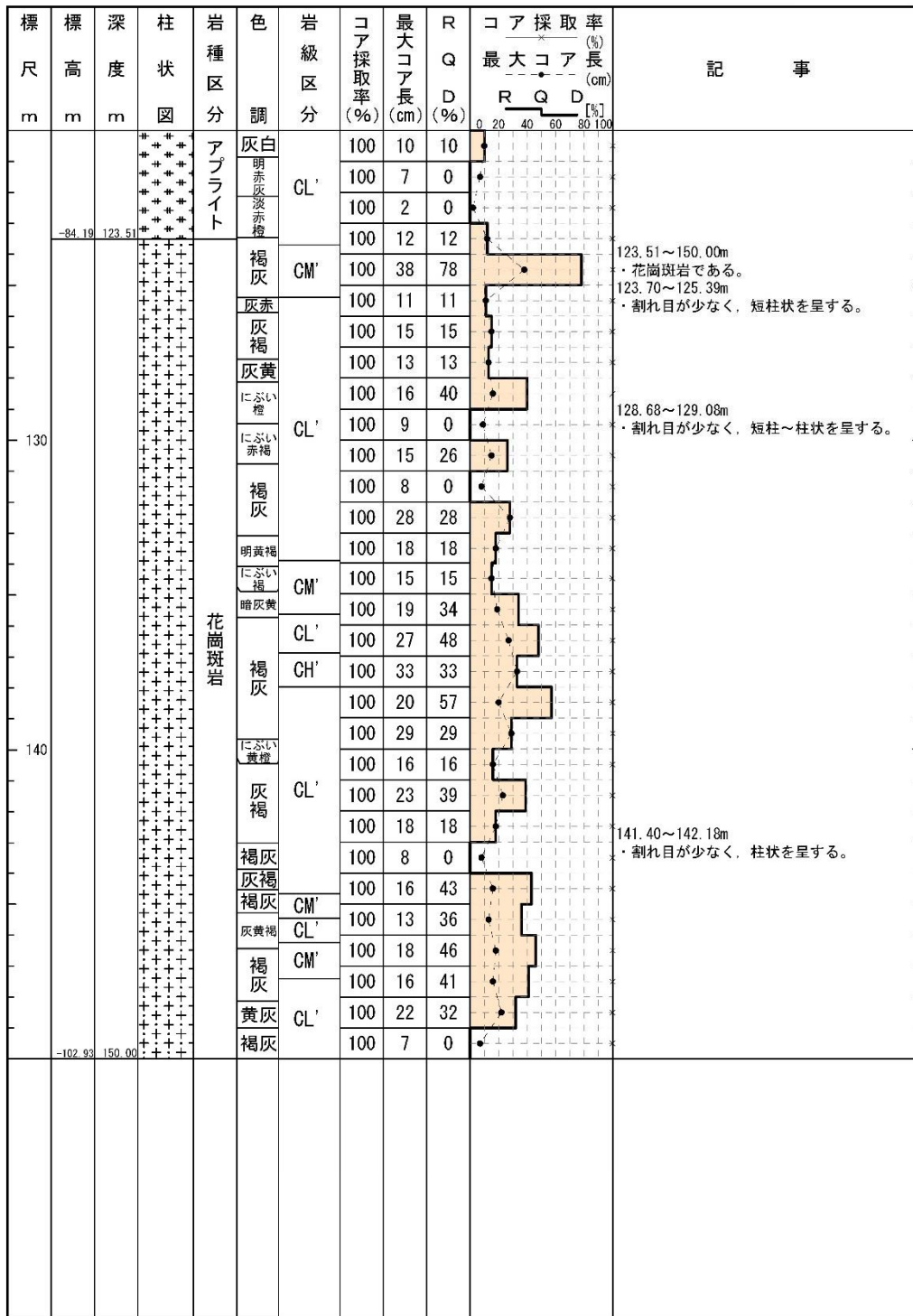
第7.4.4.154図(1)_D-6破碎帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)
コア柱状図 (H24-B11-2)



第7.4.4.154図(2)_D-6破碎帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)
コア柱状図 (H24-B11-2)



第7.4.4.154図(3)_D-6破碎帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)
コア柱状図 (H24-B11-2)



第7.4.4.154図(4)_D-6破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)
コア柱状図 (H24-B11-2)

H24-B8-22

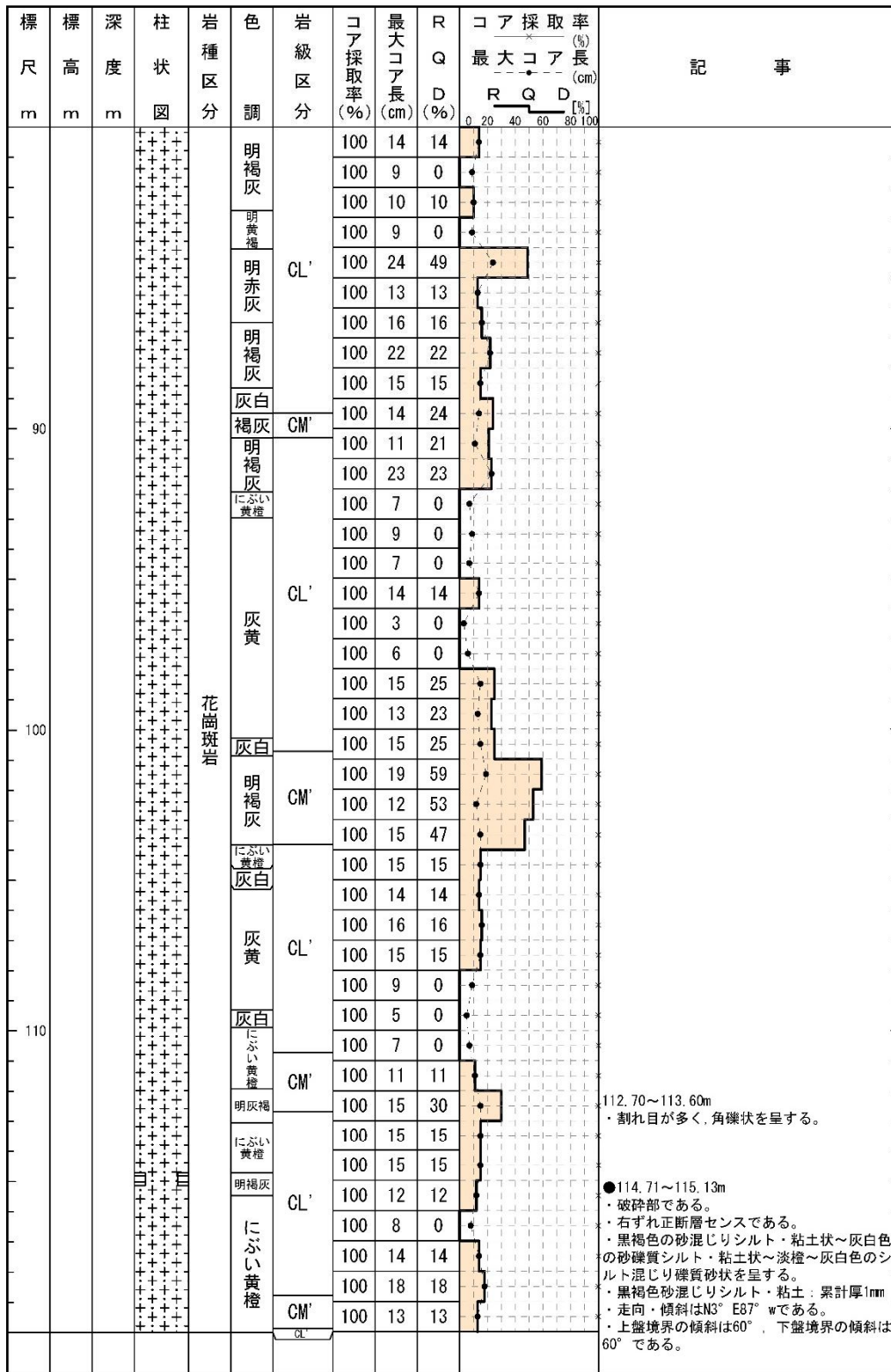
孔口標高	T.P. 3.22m	掘削長	240.00m
------	------------	-----	---------

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)		記 事
										最大コア長 (cm)	最大コア長 (cm)	
					オリブ黒 灰オリブ		100					0.00~4.97m ・埋土である。
				埋土	オリブ黒 灰		100					
					浅黄		100					
		-0.29	4.97		黒褐		100					4.97~5.16m ・シルト質砂である。 ・中粒砂が主体である。
		-1.89	7.22		灰白		100					5.16~7.22m ・有機質シルトである。
		-2.63	8.27		灰黄		100					7.22~8.27m ・礫混り砂である。 ・中～粗粒砂が主体である。
		-3.46	9.45		明黄褐		100					8.27~9.45m ・礫質砂である。
				砂	にぶい 黄橙		100					9.45~14.95m ・砂である。 ・中～粗粒砂が主体である。
					灰オリブ にぶい 黄橙		100					
					灰白		100					
		-7.35	14.95		浅黄		100					14.95~17.20m ・シルト混り砂である。
		-8.94	17.20		砂	オリブ黄 明黄褐	100					17.20~18.72m ・砂である。 ・シルト混り中～粗粒砂が主体である。
		-10.02	18.72		灰オリブ 浅黄		100					18.72~22.45m ・礫混りシルト質砂である。
		-12.65	22.45		オリブ 灰		100					
		-13.81	24.09		礫・砂 シルト		100					22.45~24.09m ・礫・砂質シルトである。
		-14.82	25.51		礫混り シルト 質砂		100					24.09~25.51m ・礫混りシルト質砂である。
		-16.05	27.25		礫混り シルト	暗緑灰	100					25.51~27.25m ・礫混り砂質シルトである。
		-16.54	27.94		シルト 質砂		100					27.25~27.94m ・シルト質砂である。
		-17.49	29.29		礫・シルト 質砂		100					27.94~29.29m ・礫・シルト質砂である。
		-18.17	30.25		礫質砂		100					29.29~30.25m ・礫質砂である。
		-18.73	31.04		有機質 砂	黒褐 灰	100					30.25~31.04m ・中～粗粒砂が主体である。
		-19.41	32.00		礫混り 砂		100					31.04~32.00m ・有機質砂である。 ・細粒砂～中粒砂が主体である。
		-20.79	33.95		砂	灰白	100					32.00~33.95m ・礫混り砂である。
		-21.94	35.58		礫質砂	灰	100					33.95~35.58m ・砂である。 ・礫質砂である。
					明褐灰		100					35.58~42.82m ・細～粗粒砂が主体である。
				砂礫	にぶい 黄橙 オリブ 灰オリブ		100					42.82m ・砂礫である。

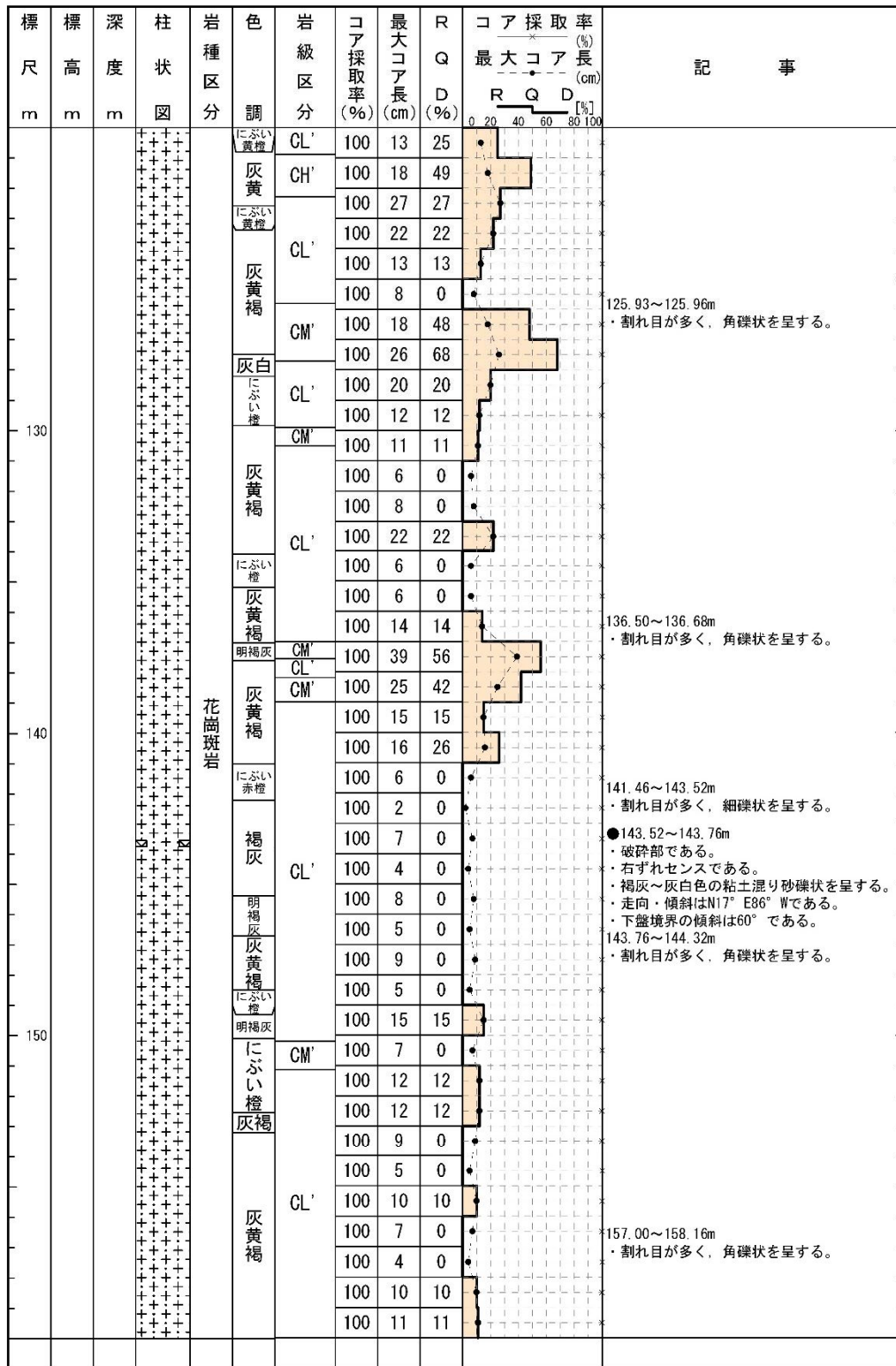
第7.4.4.153図(1)_D-6破碎帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方) コア柱状図 (H24-B8-22)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)		記 事
										最大コア長 (cm)	R Q D [%]	
		-27.06	○	砂礫	灰オリーブ		100					
		42.82	○	礫質砂	灰白		100					42.82~46.84m ・礫質砂である。
		-29.90	○	礫質砂	灰白		100					
		46.84	○	木片	黄灰 黒褐		100					46.84~47.87m ・木片を含む。
		-30.63	○	礫質砂	灰 黒褐		100					47.87~49.16m ・礫質砂である。
		-31.54	○	砂	灰白		100					・細～粗粒砂からなる不均質な砂が主体である。
		50	○	砂	灰 暗褐		100					49.16~51.21m ・砂である。
		-32.99	○	砂礫	灰白 暗灰 黄褐		100					51.21~53.33m ・砂礫である。
		-34.49	○	礫混り砂	浅黄 黄褐		100					・径2~30mm(最大径60mm)の亜角～亜円礫を含む。
		-35.37	○	シルト混り砂	灰黄 灰黄		100					53.33~54.57m ・礫混り砂である。
		-35.83	○	砂	明黄褐 灰白		100					54.57~55.22m ・中～粗粒砂が主体である。
		60	○	砂礫	にぶい 黄橙		100					55.22~59.93m ・砂礫である。
		-39.16	○	礫質砂	黄褐		100					59.93~61.15m ・礫質砂である。
		-40.02	○	粘土・礫混り砂	にぶい 黄橙		100					・粘土混り中粒砂が主体である。
		-41.15	○	砂礫	明黄褐		100					61.15~62.75m ・粘土・礫混り砂である。
		-41.45	○	シルト混り砂	明黄褐		100					・粘土を不均質に混入する中粒砂が主体である。
		-41.94	○	砂	明黄褐		100					62.75~63.17m ・砂礫である。
		70	+	灰白	灰白		100	10	10			63.17~63.86m ・シルト混り砂である。
			+	花崗斑岩	黄橙	CL'	100	11	11			63.86~188.09m ・花崗斑岩である。
			+	明褐灰	明褐灰		100	9	0			63.86~63.90m ・強風化部である。
			+	明褐灰	明褐灰		100	14	14			64.02~71.40m ・割れ目が少なく、短柱状を呈する。
			+	明褐灰	明褐灰		100	31	31			
			+	明褐灰	明褐灰		100	10	10			
			+	明褐灰	明褐灰		100	9	0			
			+	明褐灰	明褐灰		100	10	10			
			+	明褐灰	明褐灰		100	10	10			
			+	明褐灰	明褐灰		100	13	13			
			+	明褐灰	明褐灰		100	8	8			
			+	明褐灰	明褐灰		100	8	0			
			+	明褐灰	明褐灰		100	11	11			
			+	明褐灰	明褐灰		100	15	15			76.87~79.37m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
			+	明褐灰	明褐灰		100	15	15			
			+	明褐灰	明褐灰		100	16	16			79.92~81.66m ・割れ目が少なく、短柱状を呈する。

第7.4.4.153図(2)_D-6破碎帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方) コア柱状図 (H24-B8-22)



第7.4.4.153図(3)_D-6破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方) コア柱状図 (H24-B8-22)



125.93~125.96m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

136.50~136.68m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

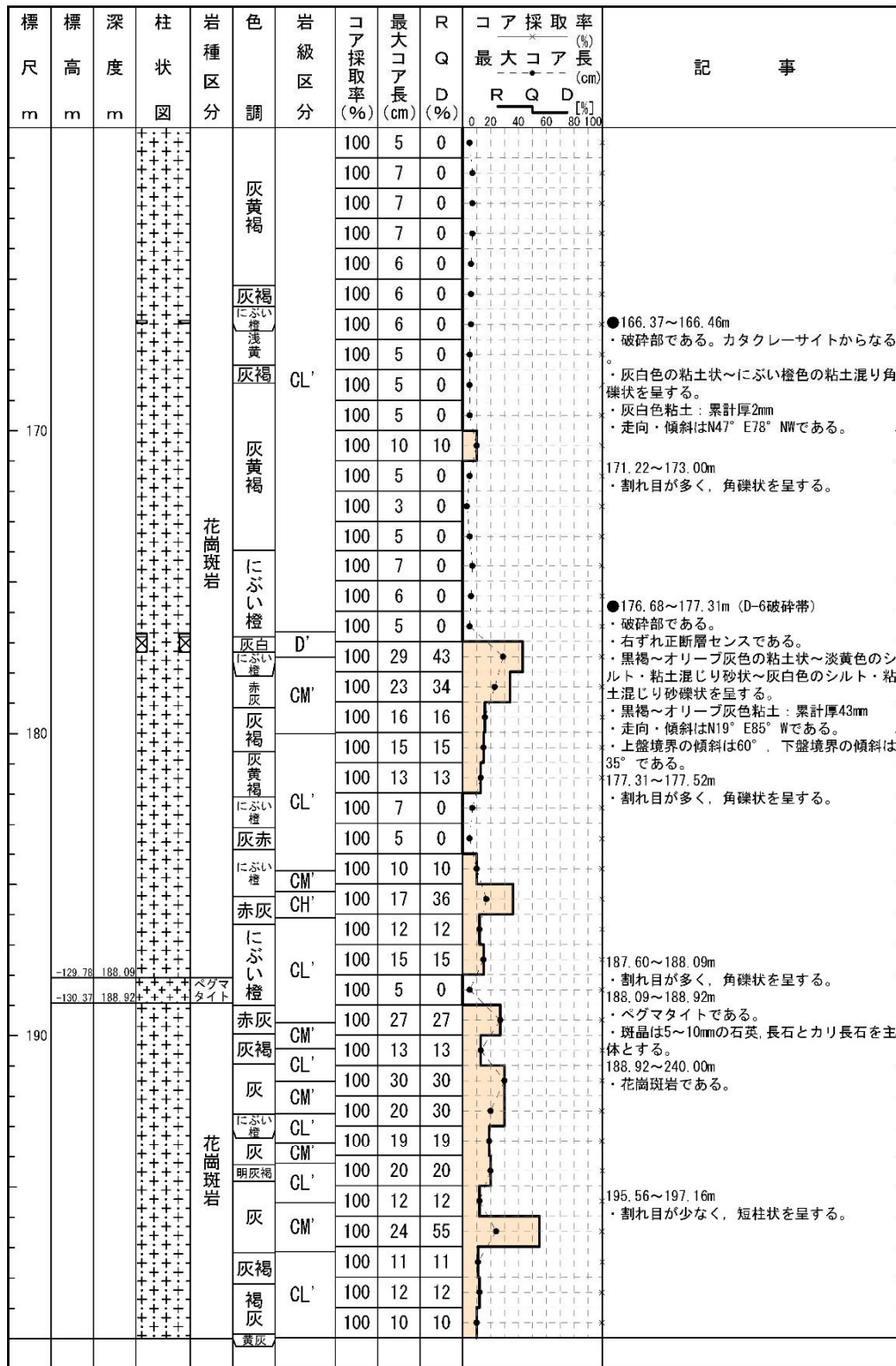
141.46~143.52m
・割れ目が多く、細礫状を呈する。

●143.52~143.76m
・破砕部である。
・右ずれセンスである。
・褐灰~灰白色の粘土混り砂礫状を呈する。
・走向・傾斜はN17° E86° Wである。
・下盤境界の傾斜は60°である。

143.76~144.32m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

157.00~158.16m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

第7.4.4.153図(4)_D-6破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方) コア柱状図 (H24-B8-22)



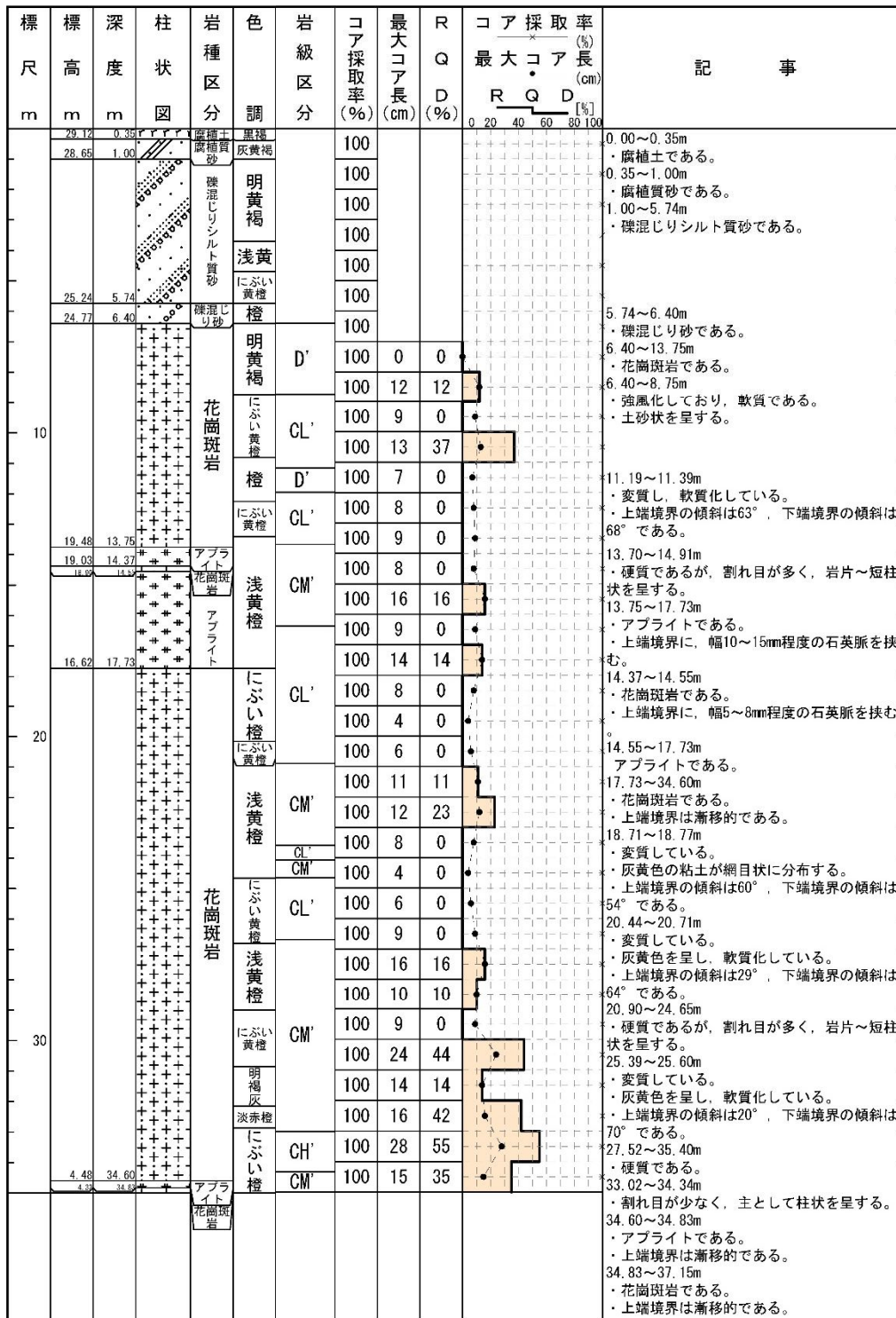
第7.4.4.153図(5)_D-6破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方) コア柱状図 (H24-B8-22)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事	
												0 20 40 60 80 100
			+	花崗斑岩	黄灰	CL'	100	14	47			
					灰	CM'	100	23	59			
							100	21	59			
							100	18	44			
							100	35	58			
							100	27	51			
					褐灰	CL'	100	22	44			
							100	21	36			
					緑灰			100	10			10
					褐灰	CM'	100	22	32			
					オリーブ灰		100	25	55			
						CL'	100	23	59			
					褐灰		100	8	0			
					黄灰	CM'	100	14	37			
							100	20	48			
					CL'	CL'	100	16	26			
							100	14	60			
							100	16	29			
					褐灰	CM'	100	6	0			
							100	11	11			
					黄灰	CM'	100	22	45			
							100	21	47			
					CL'	CL'	100	22	48			
							100	47	88			
					灰	CH'	100	23	38			
							100	24	53			
					褐灰	CL'	100	20	30			
							100	11	21			
							100	12	12			
					灰	CM'	100	15	26			
			100	15			41					
			灰褐	CL'	100	10	10					
					100	25	48					
			灰	CM'	100	12	23					
					100	20	20					
					100	9	0					
			灰褐にぶい赤褐にぶい橙	CL'	100	20	20					
					100	10	10					
			灰	CM'	100	15	26					
					100	16	16					

第7.4.4.153図(6)_D-6破碎帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方) コア柱状図 (H24-B8-22)

H20-①-9

孔 口 標 高	T. P. 29.37m	掘 削 長	75.00m
---------	--------------	-------	--------



第7.4.4. 図 (1) D-5破砕帯 ボーリング調査結果 (1号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H20-No. ①-9)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア 長 (cm)	R Q D (%)	記 事		
													0 20 40 60 80 100	0 20 40 60 80 100
40		2.65	37.15	花崗斑岩	にぶい 橙	CM'	100	19	32			<ul style="list-style-type: none"> 37.15~37.40m ・アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。 		
		2.41	37.40	アブライト	にぶい 黄橙	CL'	100	11	11				<ul style="list-style-type: none"> 37.40~38.82m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。 	
		1.45	38.82	花崗斑岩	にぶい 橙	CM'	100	10	10				<ul style="list-style-type: none"> 38.82~40.86m ・アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。 	
		-0.02	40.86	アブライト	にぶい 橙	CL'	100	8	0				<ul style="list-style-type: none"> 40.86~41.56m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。 	
		-0.53	41.56	花崗斑岩	にぶい 橙	CM'	100	11	11				<ul style="list-style-type: none"> 41.56~43.17m ・アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。 	
		-1.68	43.17	アブライト	にぶい 橙	CL'	100	8	0				<ul style="list-style-type: none"> 43.17~43.24m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 	
														<ul style="list-style-type: none"> 43.24~43.42m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。
														<ul style="list-style-type: none"> 43.42~43.58m ・アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。
														<ul style="list-style-type: none"> 43.58~44.24m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。
														<ul style="list-style-type: none"> 44.24~45.52m ・破砕部である。 ・灰黄~暗褐色の礫混じり粘土状を呈する。 ・灰黄~暗褐色礫混じり粘土：累計厚30mm ・走向・傾斜はN14° E76° Eである。 ・上盤境界の傾斜は68°、下盤境界の傾斜は67°である。
														<ul style="list-style-type: none"> 45.52~45.54m ・破砕部である。 ・灰白色の粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN42° W59° Wである。 ・上盤境界の傾斜は18°、下盤境界の傾斜は10°である。
		50				花崗斑岩	明褐 灰	CH'	100				12	23
										<ul style="list-style-type: none"> 51.50~51.53m ・破砕部である。 ・灰白色の粘土状を呈する。 ・灰白色粘土：累計厚28mm ・走向・傾斜はN36° W61° Wである。 ・上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は20°である。 				
											<ul style="list-style-type: none"> 51.53~54.20m ・変質している。 ・にぶい黄橙色の割れ目密集状を呈する。 ・上端境界の傾斜は64°、下端境界の傾斜は不明瞭である。 			
											<ul style="list-style-type: none"> 54.20~54.75m ・変質している。 ・にぶい黄橙色の割れ目密集状を呈する。 ・上端境界の傾斜は64°、下端境界の傾斜は不明瞭である。 			
											<ul style="list-style-type: none"> 54.75~56.43m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は24°である。 			
											<ul style="list-style-type: none"> 56.43~56.68m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は24°である。 			
											<ul style="list-style-type: none"> 56.68~58.93m ・ベグマタイトである。 ・アブライトである。 			
											<ul style="list-style-type: none"> 58.93~59.25m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。 			
											<ul style="list-style-type: none"> 59.25~60.20m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。 			
											<ul style="list-style-type: none"> 60.20~62.01m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。 			
											<ul style="list-style-type: none"> 62.01~62.25m ・変質している。 ・灰白色の粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は55°、下端境界の傾斜は30°である。 			
60				13.02	59.25	ベグマタイト	明褐 灰	CH'	100	25	44			<ul style="list-style-type: none"> 62.25~65.69m ・変質している。 ・灰白色の粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は67°、下端境界の傾斜は80°である。
		13.28	59.28	アブライト	明褐 灰	CH'	100	24	72	<ul style="list-style-type: none"> 65.69~66.11m ・変質している。 ・灰白色の粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は67°、下端境界の傾斜は80°である。 				
											<ul style="list-style-type: none"> 66.11~66.55m ・変質している。 ・灰白色の粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は33°、下端境界の傾斜は30°である。 			
											<ul style="list-style-type: none"> 66.55~67.68m ・変質している。 ・灰白色の粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は33°、下端境界の傾斜は30°である。 			
											<ul style="list-style-type: none"> 67.68~67.76m ・変質している。 ・微細な割れ目が分布する。 ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は75°である。 			
											<ul style="list-style-type: none"> 67.76~68.01m ・変質している。 ・微細な割れ目が分布する。 ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は75°である。 			
											<ul style="list-style-type: none"> 68.01~68.25m ・変質している。 ・微細な割れ目が分布する。 ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は75°である。 			
											<ul style="list-style-type: none"> 68.25~68.49m ・変質している。 ・微細な割れ目が分布する。 ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は75°である。 			
											<ul style="list-style-type: none"> 68.49~68.73m ・変質している。 ・微細な割れ目が分布する。 ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は75°である。 			
											<ul style="list-style-type: none"> 68.73~68.97m ・変質している。 ・微細な割れ目が分布する。 ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は75°である。 			
											<ul style="list-style-type: none"> 68.97~69.21m ・変質している。 ・微細な割れ目が分布する。 ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は75°である。 			
											<ul style="list-style-type: none"> 69.21~69.45m ・変質している。 ・微細な割れ目が分布する。 ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は75°である。 			

第7.4.4. 図 (2) D-5破砕帯 ボーリング調査結果 (1号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H20-No. ①-9)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	6	0		<p>71.43~71.58m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・明黄褐色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は8°，下端境界の傾斜は77°である。 <p>72.58~72.80m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は56°，下端境界の傾斜は38°である。 <p>73.39~73.62m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は72°，下端境界の傾斜は17°である。 <p>●73.91~74.75m(D-5破碎帯)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・暗灰色の粘土状~灰白色の粘土混じり礫状を呈する。 ・暗灰色粘土：累計厚29mm ・走向・傾斜はN9° W64° Wである。 ・上盤境界の傾斜は3°，下盤境界の傾斜は70°である。
	-24.58	75.00			明黄褐		100	3	0		
					明褐灰		100	7	0		
					灰白		100	7	0		
				灰白	D'						

第7.4.4. 図 (3) D-5破碎帯 ボーリング調査結果 (1号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H20-No. ①-9)

H24-B11-1

孔口標高	T.P.	7.10m	掘削長	150.00m
------	------	-------	-----	---------

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事
										最大コア長 (cm)	R	Q	
							100						0.00~7.95m ・埋土である。
		1.48		埋土	灰黄		100						
		0.96		埋土	灰黄		100						
		0.71		埋土	灰黄		100						
		0.28		埋土	明黄褐		100						
		0.01		埋土	灰黄		100						
		-0.94		埋土	灰黄		100						
		-1.53		埋土	暗灰黄		100						
		-2.52		埋土	灰黄		100						
		-4.59		埋土	灰褐		100						
		-5.56		埋土	灰		100						
		-3.59		埋土	黒		100						
		-3.67		埋土	黄褐色		100						
		-10.58		埋土	黒		100						
		-11.13		埋土	灰		100						
		-13.78		埋土	灰黄		100						
		-14.32		埋土	灰黄		100						
		-17.49		埋土	明黄褐		78						
		-18.16		埋土	明黄褐		72						
		-19.82		埋土	明黄褐		100						
				アブライト	明黄褐	GL'	100	18	18				38.07~125.11m ・アブライトが主体である。 ・所々にペグマタイトを挟む。
													38.07~40.45m ・風化して軟質化している。
													38.30m ・傾斜15°, 幅5mmの石英脈を挟む。

第7.4.4.158図(1)_D-5破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方) コア柱状図 (H24-B11-1)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D [%]	記 事	
													0 20 40 60 80 100
50			+	アプライト	明褐灰	CL'	100	20	48		[0 20 40 60 80 100]		42.34m ・傾斜50°の割れ目に、幅2~6mmの流入粘土を挟む。 42.34m ・傾斜45°の割れ目に、幅3~4mmの流入粘土を挟む。 ●45.57~45.64m ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・暗褐色の砂混り粘土状~灰白~黄褐色のシルト質砂状を呈する。 ・暗褐色砂混り粘土：累計厚7mm ・走向・傾斜はN8°W84°Wである。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は57°である。 49.78~49.84m ・変質している。 ・灰白~黒褐色の砂質シルト状を呈する。 ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は75°である。
						100	15	38					
						100	27	47					
						100	15	15					
						100	18	74					
						100	24	38					
						100	18	18					
						100	27	73					
						100	25	72					
						100	31	92					
						100	46	70					
						100	26	57					
						100	32	66					
						100	16	42					
						100	32	71					
60			+	アプライト	明褐灰	CH'	100	61	93		[0 20 40 60 80 100]		55.28~55.82m ・ベグマタイトである。
						100	28	50					
						100	21	68					
						100	25	83					
						100	24	77					
						100	20	38					
						100	21	63					
						100	27	63					
						100	25	73					
						100	16	16					
						100	12	22					
						100	25	52					
						100	36	59					
						100	28	80					
						100	22	74					
70			+	アプライト	明褐灰	CL'	100	24	63		[0 20 40 60 80 100]		64.83~65.64m ・やや軟質で割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 67.48~71.24m ・硬質で割れ目が少なく、主として柱状を呈する。 72.39~72.63m ・変質している。 ・浅黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。 ・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は60°である。 73.51~74.70m ・硬質で割れ目が少なく、長柱状を呈する。 76.68~77.80m ・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。
						100	21	54					
						100	28	58					
						100	22	91					
						100	31	89					
						100	30	68					
						100	27	86					
						100	14	54					
						100	8	0					
						100	24	24					

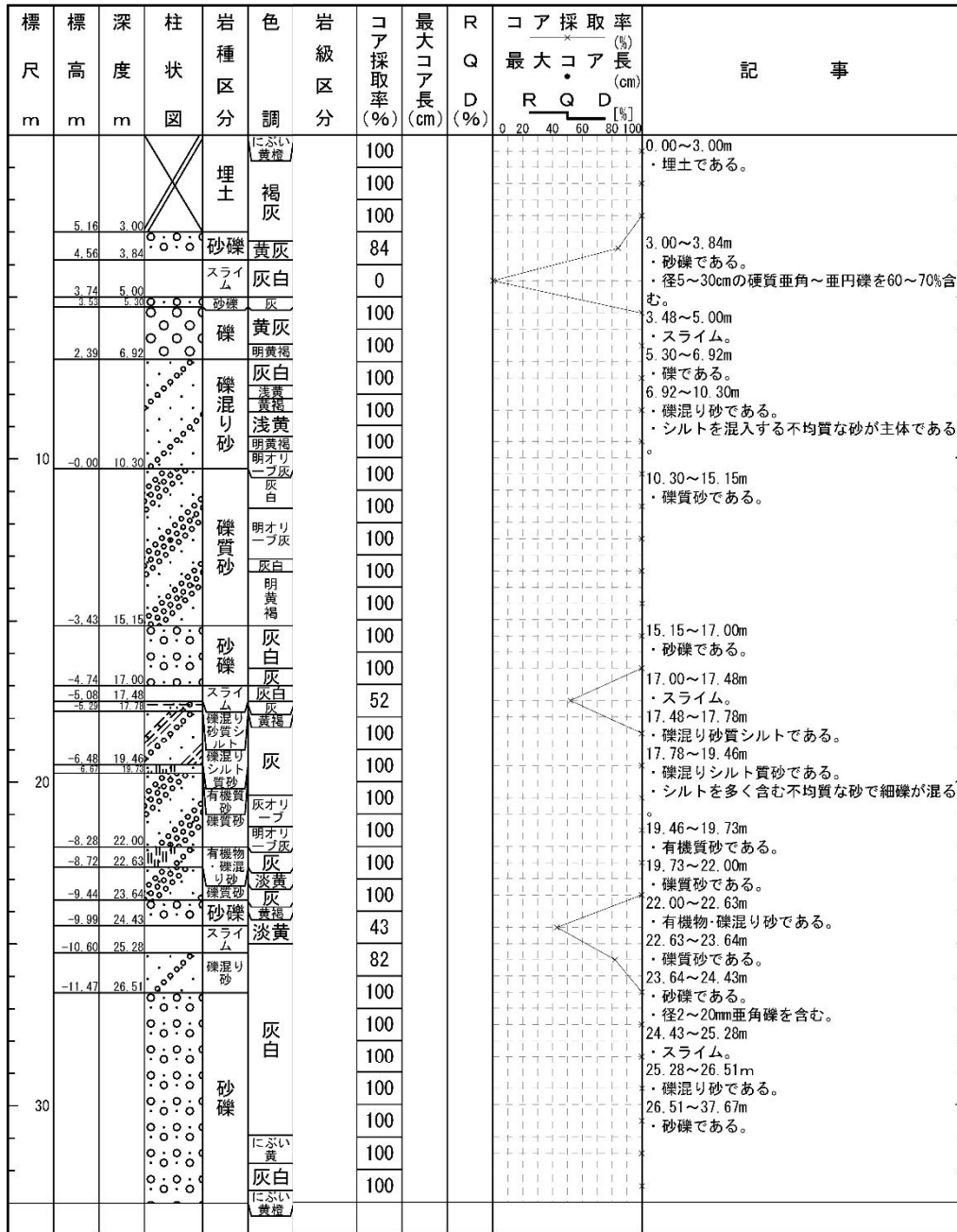
第7.4.4.158図(2)_D-5破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)
コア柱状図 (H24-B11-1)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記事								
												0 20 40 60 80 100							
90			+	ア プ ラ イ ト		褐灰	CM'	100	19	92		80.74~83.23m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。							
							100	27	81	83.85m ・傾斜45°、幅5mmの石英脈を挟む。									
						明褐灰	CL'	100	42			89	87.52~88.93m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。						
								100	24	49		●88.93~88.97m (D-5破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・淡黄色の砂礫混りシルト・粘土状を呈する。 ・上盤境界の傾斜は53°、下盤境界の傾斜は50°である。							
						浅黄橙	CM'	100	7	0			94.97~95.45m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。						
								100	9	0		95.87~96.05m ・変質して軟質化している。 ・割れ目が多く、岩片状を呈する。							
						明褐灰	CL'	100	14	14			●97.87~99.00m ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・黄褐色の粘土~礫混じり粘土状~灰白色の礫混じりシルト質砂状~砂礫状を呈する。 ・黄褐色粘土~礫混じり粘土：累計厚33mm ・走向・傾斜はN4° E72° Wである。 ・上盤境界の傾斜は50°、下盤境界の傾斜は60°である。						
								100	8	0		99.64~100.46m ・傾斜45°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。							
						明褐灰	CL'	100	42	0			103.32~104.86m ・縦方向の連続する割れ目と、これに斜交する割れ目が分布する。						
								100	20	31		●108.59~108.91m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。							
						灰白	CL'	100	18	67			灰白色の砂礫質シルト・粘土~砂質シルト 粘土状~にぶい黄褐色のシルト・粘土混じり砂礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN16° E82° Eである。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は52°である。						
								100	13	23		●109.66~109.73m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。							
						明褐灰	CL'	100	19	19			灰白色の粘土質砂状~粘土混り砂礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN3° W87° Wである。 ・上盤境界の傾斜は60°、下盤境界の傾斜は50°である。						
								100	15	28		113.03~114.20m ・硬質で割れ目は少なく、柱状を呈する。							
						浅黄橙	D'	100	10	20			116.53~117.61m ・硬質で割れ目は少なく、長柱状を呈する。						
								100	11	11									
						100			+	ア プ ラ イ ト			灰白	CL'	100	0	0		●108.59~108.91m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。
														CM'	100	9	0		
													明褐灰	CL'	100	17	27		113.03~114.20m ・硬質で割れ目は少なく、柱状を呈する。
															100	13	23		
明褐灰	CL'	100	40	82															
		100	19	51															
灰	CM'	100	10	10															
		100	18	36															
灰褐	CM'	100	26	87															
		100	20	46															
灰白	CL'	100	7	0															
		100	13	25															
灰黄褐	CL'	100	13	25															
		100	9	0															
灰黄	CM'	100	11	11															
		100	35	77															
にぶい黄橙	CH'	100	15	49															
		100	22	48															
灰	CH'	100	48	93															
		100	29	79															
灰白	CM'	100	25	49															
		100	20	45															
灰褐	CM'	100	25	49															
		100	20	45															

第7.4.4.158図(3)_D-5破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)
コア柱状図 (H24-B11-1)

H24-B8-21

孔 口 標 高	T. P.	7.28m	掘 削 長	240.00m
---------	-------	-------	-------	---------



第7.4.4.157図(1)_D-5破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋)
コア柱状図 (H24-B8-21)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事							
												0 20 40 60 80 100						
		-19.36	○	砂 礫	に ぶ い 黄 橙		100											
		37.67	○				100											
			○				100											
			○				100											
			○				100											
			○	明 灰 褐			100											
40			+		浅 黄	CL'	100	8	0	●	37.67~73.60m ・花崗斑岩である。							
						CM'	100	11	21	■								
						灰 黄	100	9	0	●								
							100	6	0	●								
						灰 白	CL'	100	4	0		●						
							100	4	0	●								
						灰 黄	100	3	0	●								
							CM'	100	13	13		■						
						50			+			灰 白	CL'	100	7	0	●	41.79~42.09m ・風化部である。
														100	17	17	■	
														100	7	0	●	
														100	10	20	■	
														100	5	0	●	
														100	10	10	■	
100	10	10	■															
100	9	0	●															
100	7	0	●															
100	8	0	●															
60			+		明 褐 灰	CM'	100	19	37	■								
							灰 白	100	3	0	●							
								100	4	0	●							
								100	4	0	●							
							明 褐 灰	CL'	100	5	0	●						
								100	12	12	■							
								100	8	0	●							
								100	8	0	●							
														100	11	11	■	
														100	10	10	■	

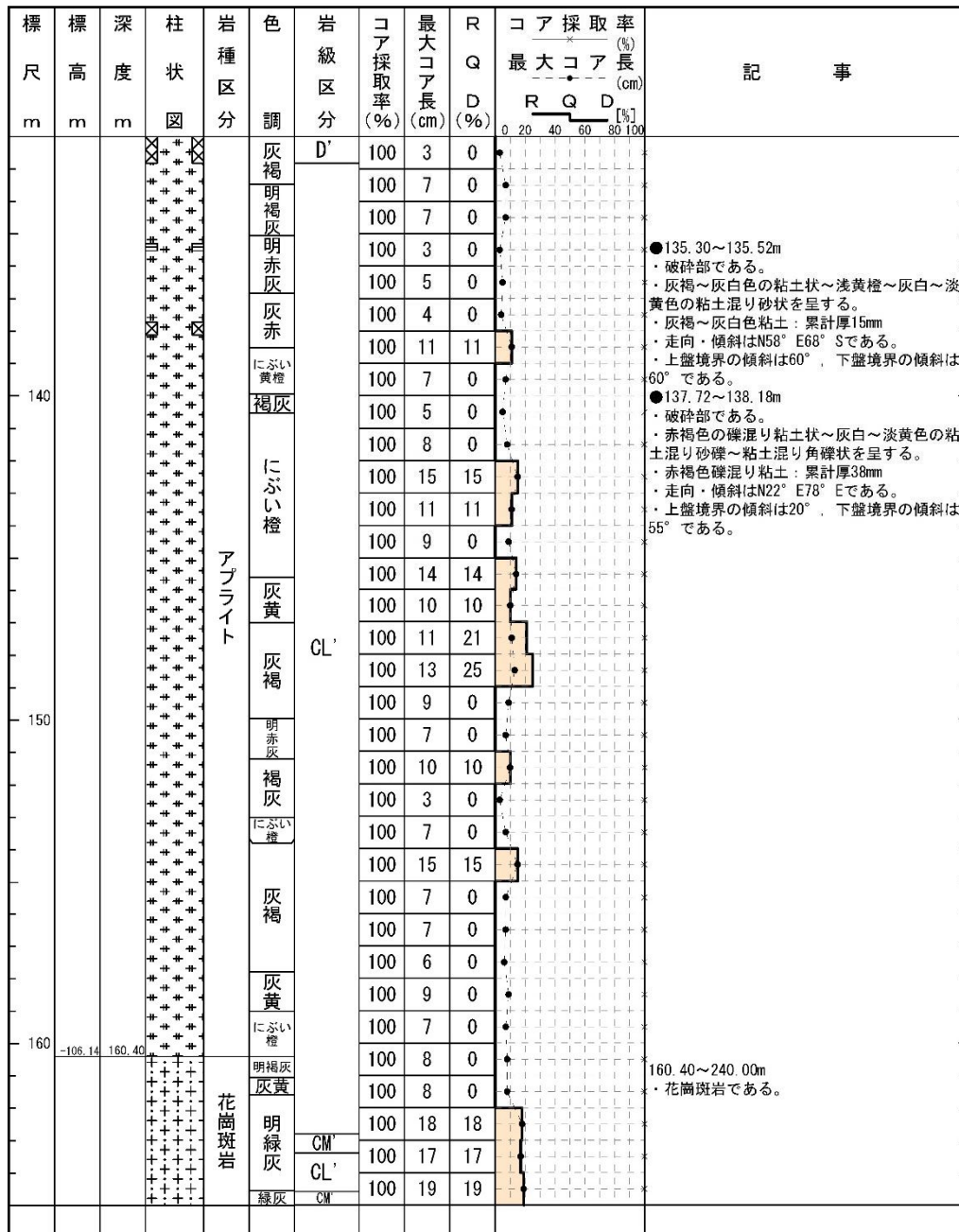
第7.4.4.157図(2)_D-5破碎帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋)
コア柱状図 (H24-B8-21)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事					
												0 20 40 60 80 100				
70	-44.76	73.60	+	花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	7	0	●	66.34~67.37m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 70.46~70.53m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 73.60~160.40m ・アブライトである。 75.56~76.01m ・割れ目が多く角礫状を呈する。 76.01~77.36m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ●79.86~80.17m ・破砕部である。 ・黒褐色の砂混りシルト状~淡橙色の粘土質 砂礫状を呈する。 ・黒褐色砂混りシルト：累計厚6mm ・走向・傾斜はN18° E89° Wである。 ・上盤境界の傾斜は53°、下盤境界の傾斜は 30°である。 80.76~81.03m ・割れ目が多く角礫状を呈する。 81.03~82.37m ・割れ目間隔が広く、柱状を呈する。 ●88.67~88.71m ・破砕部である。 ・褐色の粘土状~黄白色の砂混りシルト状を 呈する。 ・褐色粘土：累計厚12mm ・走向・傾斜はN34° E89° NWである。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は 38°である。 ●92.86~93.53m (D-5破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・にぶい黄橙~明褐色の粘土混り角礫状~灰 白色の角礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN5° W82° Eである。 ・下盤境界の傾斜は70°である。 95.56~95.87m ・風化部である。 ・割れ目が多く、角礫状を呈する。					
					灰白	CM'	100	4	0	●						
					明褐灰	GL'	100	4	0	●						
							100	8	0	●						
							100	6	0	●						
						灰白	D'	100	7	0		●				
							GL'	100	3	0		●				
							GL'	100	8	0		●				
							GL'	100	5	0		●				
							黄褐	D'	100	13		13	■			
					80			+	アブライト	灰白		CL'	100	7	0	●
													100	9	0	●
	100	4	0	●												
	100	3	0	●												
	灰黄	CL'	100	2						0	●					
	100		13	24						■						
		CL'	100	13						24	■					
		CL'	100	5						0	●					
		CL'	100	14						14	■					
		CL'	100	11						11	■					
		CL'	100	5						0	●					
		CL'	100	11						21	■					
		CL'	100	11	11	■										
90			+	アブライト	明褐灰	CL'	100	5	0	●						
							100	4	0	●						
							100	4	0	●						
							100	4	0	●						
						褐灰	D'	100	11	11	■					
							D'	100	6	0	●					
							D'	100	5	0	●					
							D'	100	5	0	●					
							CL'	100	3	0	●					
							CL'	100	13	13	■					
							CL'	100	8	0	●					
							CL'	100	13	13	■					

第7.4.4.157図(3)_D-5破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋)
コア柱状図 (H24-B8-21)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [R]	記 事
100			+	ア プ ラ イ ト	明褐灰	CL'	100	11	22	●	<p>119.05~123.73m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。</p> <p>125.97~126.05m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。</p> <p>●131.03~131.14m ・破碎部である。 ・灰黄褐色の粘土混り砂礫~粘土混り角礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN3° W84° Wである。 ・上盤境界の傾斜は62°、下盤境界の傾斜は40°である。 131.28~131.88m ・割れ目が多く角礫状を呈する。</p> <p>●131.88~132.82m ・破碎部である。 ・暗褐色の粘土状~浅黄橙~褐灰色の粘土混り角礫状を呈する。 ・暗褐色粘土：累計厚13mm ・走向・傾斜はN15° E80° Eである。 ・上盤境界の傾斜は60°、下盤境界の傾斜は60°である。</p>
					D'	100	7	0	●		
					に ぶ い 橙		100	7	0	●	
							100	8	0	●	
							100	9	0	●	
							100	15	26	●	
					褐 灰		100	15	54	●	
							100	13	34	●	
					灰 白		100	16	27	●	
							100	12	12	●	
					明 褐 灰		100	7	0	●	
							100	11	11	●	
					に ぶ い 橙		100	7	0	●	
							100	4	0	●	
					に ぶ い 黄 橙		100	3	0	●	
							100	10	10	●	
					明 褐 灰		100	11	11	●	
							100	10	10	●	
					灰 白		100	7	0	●	
							100	7	0	●	
明 褐 灰		100	11	11	●						
		100	12	12	●						
灰 白		100	8	0	●						
		100	7	0	●						
褐 灰		100	19	19	●						
		100	10	10	●						
灰 黄 褐		100	5	0	●						
		100	11	11	●						
に ぶ い 橙		100	3	0	●						
		100	7	0	●						
明 赤 灰		100	6	0	●						
		100	3	0	●						

第7.4.4.157図(4)_D-5破碎帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋)
コア柱状図 (H24-B8-21)



第7.4.4.157図(5)_D-5破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋)
コア柱状図 (H24-B8-21)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事
170			+	花崗斑岩	緑灰	CL'	100	14	14	0	167.22~168.86m ・ 割れ目が多く、角礫状を呈する。
					褐灰	100	15	37	0		
					明赤灰	100	3	0	0		
					灰白	100	3	0	0		
					黄灰	100	5	0	0		
					褐灰	100	4	0	0		
					明褐灰	100	4	0	0		
					明褐灰	100	5	0	0		
					明褐灰	100	5	0	0		
					灰	100	4	0	0		
					灰	100	5	0	0		
					灰	100	8	0	0		
					緑灰	100	9	0	0		
					灰	100	4	0	0		
					灰白	100	3	0	0		
180			+	花崗斑岩	灰	100	3	0	0	183.04~183.56m ・ 割れ目は少なく、柱状を呈する。	
					緑灰	D'	100	4	0		0
					灰	100	6	0	0		
					オリブ灰	100	9	0	0		
					灰白	100	12	12	0		
					灰	100	7	0	0		
					灰	100	15	15	0		
					灰	100	9	0	0		
					灰	100	9	0	0		
					灰	100	4	0	0		
					褐灰	100	8	0	0		
					灰	100	3	0	0		
					灰	100	4	0	0		
					灰	100	4	0	0		
					190			+	花崗斑岩		灰
灰	100	4	0	0							
灰	100	4	0	0							
灰	100	7	0	0							
灰	100	7	0	0							
			+	花崗斑岩	灰オリブ	CM'	100	14	14	0	
					灰黄	CL'	100	3	0	0	
					灰	100	3	0	0		

第7.4.4.157図(6)_D-5破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋)
コア柱状図 (H24-B8-21)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事	
												0 20 40 60 80 100
200			+	花崗斑岩	灰	CL'	100	9	0	0	203.92~204.36m 変質で緑色に変色する。	
					オリブ灰		100	10	10	0		
					灰		100	12	12	0		
					緑灰		100	7	0	0		
					緑灰		100	5	0	0		
					灰		100	3	0	0		
					灰		100	5	0	0		
					オリブ灰		100	7	0	0		
					オリブ灰		100	8	0	0		
					緑灰		100	11	11	0		
					緑灰		100	10	10	0		207.92~208.42m 割れ目が多く、角礫状を呈する。
					灰		100	13	13	0		
灰	100	8	0	0								
オリブ灰	100	11	11	0								
灰	100	8	0	0								
オリブ灰	100	10	10	0								
緑灰	100	13	13	0								
灰	100	4	0	0								
灰	100	6	0	0								
灰	100	3	0	0								
灰褐	100	6	0	0								
オリブ灰	100	15	15	0								
褐灰	100	9	0	0								
オリブ灰	100	4	0	0								
暗緑灰	100	8	0	0								
220			+	花崗斑岩	褐灰	CM'	100	12	12	0		
						CL'	100	20	31	0		
						CL'	100	15	15	0		
						CM'	100	9	0	0		
						CM'	100	13	13	0		
						CL'	100	9	0	0		
230			+	花崗斑岩	褐灰	CL'	100	9	0	0		
						CM'	100	9	0	0		
						CL'	100	9	0	0		
						CM'	100	16	53	0		

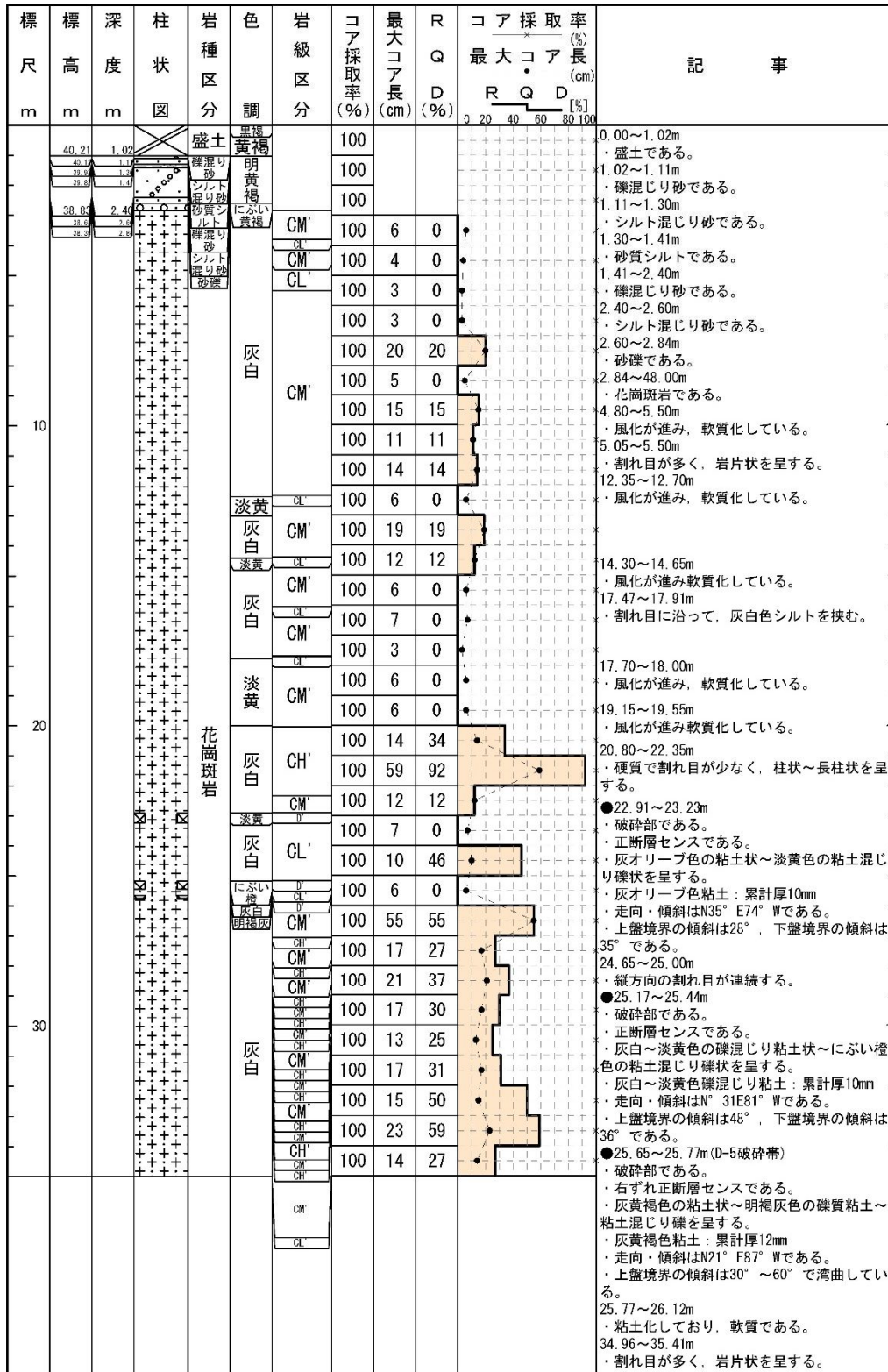
第7.4.4.157図(7)_D-5破碎帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋)
コア柱状図 (H24-B8-21)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事
				花崗斑岩	褐灰	GL'	100	8	0		<p>233.86~234.23m ・割れ目が少なく、柱状を呈する。</p> <p>●234.23~234.38m ・破砕部である。 ・緑灰色の粘土状~灰白~緑灰色の角礫状を呈する。 ・緑灰色粘土：累計厚4mm ・走向・傾斜はN3°W84°Eである。 ・上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は65°である。</p> <p>236.90~239.00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。</p>
	-162.43	240.00					100	9	0		
							100	10	10		
							100	9	0		
							100	9	0		
							100	9	0		
							100	7	0		
							100	9	0		
							100	7	0		

第7.4.4.157図(8)_D-5破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋)
コア柱状図 (H24-B8-21)

H27-D5-1

孔口標高	T.P. 41.23m	掘削長	48.00m
------	-------------	-----	--------



第7.4.4. a65図(1)_D-5破碎帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H27-D5-1)